J. Soc. Powder Technol., Japan, **62**, 299–302 (2025)

海外報告
Overseas Report

ドイツでの研究滞在記

Overseas Report of Research stay in Germany

岩瀬 和至*
Kazuyuki Iwase

1. 自己紹介

「最近海外からお帰りになったと伺いましたが，粉体工学会誌でそのご経験を紹介していただけませんか」そんなお声がけをいただいたのは，海外滞在から帰国したその日でした。このお話は，私が所属する多元物質科学研究所（多元研）のイベントでの出来事です。クロスアポイントメント制度に基づき多元研にも所属されている岐阜大学の高井先生から，お誘いをいただきました。せっかくお話をいただきましたので，私の経験が少しでも（特に若手の方々に）お役に立てばと思い執筆させていただきました。これまでの海外での研究滞在の経験としては，平成 30 年度の日本学術振興会（JSPS）若手研究者交流事業（スイス枠）に採択され，その年の秋にスイスのポール・シェラー研究所に滞在したことがあります。今回は共同研究のため，ドイツに約 1 か月滞在し，研究を行いました。海外での研究滞在も 1 ヶ月ほどになると，単なる海外学会での滞在以上に色々な経験ができると思います。

今回は，ドイツの Braunschweig にある Technische Universität Braunschweig（ブラウンシュヴァイク工科大学）の Daniel Schröder 教授の研究室に研究滞在をさせていただきました。Braunschweig はフランクフルトとベルリンの間くらいに位置しており，現地の高速鉄道でフランクフルトから 3 時間弱のところにあります。街の中心部には，お城の跡を丸々改装してできたショッピングモールがあり，治安もよく非常に住みやすい街であると感じました。また，滞在期間がクリスマスシーズンに近かったので，滞在中にモールの前に大きいクリスマスツリーが飾られました（**図 1**）。加えて，Daniel 教授自身も日本に滞在した経験から非常に日本の文化にも好意的で，快く私の滞在を引き受けていただきました（余談となりますが，そこの博士課程の学生も，私が滞在する直前に日本に滞在していたらしいです）。特に本稿では，主に最近滞在したドイツの Braunschweig での生活についてご紹介したいと思います。

2. 海外渡航に当たる準備

ドイツも含めた多くの EU 加盟国はシェンゲン協定に加入しており，日本国籍の保持者は最長 6 ヶ月間に 90 日以内の滞在であれば，観光や出張についてはビザが不要です（一回の渡航で 90 日，ではなく直近 180 日のうち 90 日，という点で計算されることに注意が必要です）。ただ，タイムリーですが 2025 年から欧州渡航情報認証制度（ETIAS）というアメリカの電子渡航認証システム（ESTA）に似たシステムの運用が開始されるそうです。滞在関係の手続きは必要書類が変わることもありますので，滞在が決まったら準備は早めにすることをおすすめします。

今回の私の滞在についてはビザの申請など事前の準備として役所的な書類は不要で，現地での宿泊場所の確保のみを行いました。昨今の円安やインフレの影響を受けて宿泊費も円ベースでは増加の一途を辿っています。ですので，滞在先は綺麗さ，利便性，価格を見比べて総合的に決定する必要があります。共同研究関係の手続きで教員の立場で滞在するのであれば，滞在先の機関によっては「滞在中の給料は現所属機関が出すという証明を出してほしい」という要望が滞在先の研究機関から出る場合があります。加えて，事前にサンプル等を送付する必要がある場合には輸出管理などの所定の手続きが必要です。このように，滞在先の国，研究機関により手続きなどが異なる，かつ，役所の事務手続きにはどこの国にも時間がかかるので，時間の余裕を十分に持って，先方の研究者と綿密なやり取りをして手続きされることをおすすめします。

3. 研究生活と現地の生活

私の研究の専門分野は電気化学分野で，主な研究テーマは電気エネルギーに関連する物質エネルギー変換，蓄電（電池）関係となります。今回の滞在中には，上記の電気化学関連テーマの実験を行いました。現地の博士の学生に実験手法を習いつつ手を動かした滞在の日々は，

2025 年 2 月 14 日受付
東北大学 多元物質科学研究所
（〒 980-8577 宮城県仙台市青葉区片平 2-1-1）
Institute of Multidisciplinary Research for Advanced Materials
（2-1-1 Katahira, Aoba-ku, Sendai, Miyagi 980-8577, Japan）
* 連絡先　kazuyuki.iwase.a6@tohoku.ac.jp

日本で学生と一緒に研究を進めるのとはまた違った非常に充実した楽しいものでした。実験の詳細については非常に専門的になるので本稿では割愛しますが，試薬の管理やハンドリングのルール，装置の使い方などが日本の研究室とはやはり異なります。郷に入っては郷に従えという言葉の通り，積極的にコミュニケーションを取って滞在先のやり方をマスターする必要があります。日本同様短期の visitor は「お客さん」ですし，もちろん教えてほしいと頼んだ際は笑顔で快く教えてくれます。ただ，日本とは違って積極的にお世話を焼いてくれるというより「聞かれたら快く教えてあげる」くらいのスタンスが（以前の経験からも）海外では多いと思います。そのあたりのスタンスは日本との違いを感じました。そのような「一個人を自立した人として見る」というスタンスは研究においても感じられて，現地の学生も自分で考えて進めていこうとする姿勢を持っている印象を受けました。

生活面では近年のインフレと円安を反映して，やはり日本と比べると何もかも高かったです。特に，レストランは店員さんの人手がかかっており人件費がかかるからか特に高く，例えばレストランでハンバーガーのセットを頼むとたしかに美味しいのですが 5,000 円くらいです（**図 2**）。食事関係では，現地の学生に聞いたところカレーソースのかかったソーセージが名物らしく，それも現地のレストランで食べました（**図 2**）。どれも量が多いので，1 食たべたらしばらくはお腹がいっぱいでした。スーパーであれば値段はまだマシなので，節約のためには自炊も上手に取り入れていくことが大事だと思いました。私が自炊をしたときですが，基本的にドイツ語表記で何が書いてあるのかもよくわからないので，買い物をするときはスマホ片手でリサーチを欠かさず，翻訳アプリも見ながらの買い物になりました。日本と同じ食材や調味料が手に入るとは限らない，という面白さがあります。例えば，ドイツでは鳥もも肉は基本的に骨付きですし，豚肉や牛肉に薄切りはありません。

他には生活するうえでのシステムという点でも色々な違いがあります。例えば，電車や路面電車には改札がなく，切符を運転手もしくは車内の自販機から買うか，ネットで買います。切符がなくても乗ることはできますが，鉄道会社の社員の人がたまに見回りをしていて，そのときに切符がないと罰金が取られます。また，ペットボト

図 1　（左上）お城を改装してできた Braunschweig のショッピングモールと（左下）そのモールの屋上から見た Braunschweig の町並み。（右）モールの前に組み立てられたクリスマスツリー

図 2　（左）Braunschweig で食べた 5,000 円くらいのハンバーガーセット（あとレモネードとコーヒーが付きます）と，（右）ドイツ名物のカレーブラスト（カレー味のソースがかかったソーセージ）。付け合せはじゃがいもが多い

ルを買うときは deposit を自動的に取られ，空になったら洗って大きいスーパーの機械にいれるとクーポンとしてお金がバックされる，という日本には無いシステムがあります。そういったところを経験することも海外で生活する楽しみ（戸惑いやストレスの要因？）の一つだと思います。

4. 余暇の過ごし方

私は野球が好きなのですが，滞在当時はオンラインにて日本時間の夜にやっていた野球の国際大会を現地の昼間から缶ビール片手に観ていました（ドイツは水よりビールのほうが安いくらいの価格設定です）。遠く離れていても日本でのコンテンツが楽しめる，非常にいい時代だと思います。しかし，流石に 4 週間もあると毎週引きこもってオンラインで野球ばかりを見るわけにもいかず，現地の学生に教えてもらってハイキングをしたり，前述の写真の通り滞在先の近くの美味しいレストランを巡ったりしました。なかなか知らないところに行くというのは（もちろん日本でも）大変なことではありますが，それを達成したら非常に楽しい経験ができます。また，滞在時期がクリスマスに被っていたため，現地のクリスマスマーケットへ先方に一緒に連れて行ってもらいました。非常に寒かったですが，賑やかで楽しめました（**図 3**）。なんでも Braunschweig のクリスマスマーケットはドイツ北部で最もきれいなクリスマスマーケットという評判だそうです（フランクフルトは都会なのでクリスマスマーケットでも英語が通じますが，Braunschweig は田舎なので基本的に店員が英語を使えないです）。また，研究室でのクリスマスパーティーにも参加させてもらいました（**図 4**）。そういった場でも，お酒を飲みながらですが，現地の研究者や学生との交流を楽しむことができました。

図 3　現地の様子。(左上)クリスマスマーケットの様子と(左下)現地のクリスマスマーケットでよく出るじゃがいも料理。(右)ヨーロッパの冬の名物，グリューワイン（ホットワイン）

図 4　滞在先のクリスマスパーティーの様子。(左) ポットラックスタイルで料理を並べている様子（会の途中で写真を撮ったので料理があまりないです)。と（右）現地でお世話になった学生さんたち（右下が筆者）

5. まとめ

あくまで個人的な印象ですが，日本ではできず海外でしかできないはそれほど多くはないかもしれません。しかし，そのような場合でも自分の専門分野において海外の研究グループが先進的な成果を上げていることは珍しくないでしょう。文化的にも異なるバックグラウンドを持つ研究者たちと議論して新たな研究の視点を得ること，新しい同分野の研究者と知り合い交流を深めることは，自身の研究の発展にもつながると思います。また海外での経験は，単なる研究活動にとどまらず普段と違うことにチャレンジする，あるいは自国の文化やいいところを普段と違う視点で見ることができる，という点で個人としての成長という観点でも意義深いことだと思います。幸いなことに，大学単位のもの，さまざまな財団，国の機関がサポートしてくれるものを含めると海外渡航を支援する制度は多くあります（筆者も最初に海外渡航をしたときは JSPS の制度でした）。興味がある方はぜひそれらの制度を活用し，海外での研究に挑戦していただきたく思います。

今回の滞在では，研究活動を通じて多くの学びを得ると同時に，現地の文化や生活も体験することができました。一方で，短期滞在では時間が限られているため，もっと色々学ぶためには長期滞在が適していると感じました。もちろん食事や文化の問題もあるので，どの程度楽しめるかは個人差があると思いますが，食わず嫌いはよくありません。コロナ禍で海外に行ける機会もずっと限られてきましたが，まだ経験したことない方には是非チャレンジしていただきたく思います。私自身も，機会を見つけてまた再度研究滞在をしたいと考えています。

6. 謝辞

貴重な滞在の機会をいただいた Technische Universität Braunschweig の Daniel Schröder 教授と研究室のスタッフ及び学生の皆様，今回の海外滞在をご快諾いただいた現所属の研究室主宰者である笘居高明教授，滞在準備をサポートしてくれた家族に感謝します。

J. Soc. Powder Technol., Japan, **62**, 303–304 (2025)

行事報告
Event Report

大谷吉生先生ご退職記念パーティー印象記

Report on Retirement Party of Prof. Yoshio Otani

兵庫県立大学大学院工学研究科
佐藤根 大士
Hiroshi Satone

2024 年 8 月 10 日（土）に大谷吉生先生のご退職記念パーティーが金沢 東急ホテルで開催された。ご退職は 2020 年 3 月であったがコロナ禍のまっただ中であったため，ご退職後すぐの開催はできず，同年 10 月にはタイに赴任なさったこともあり延び延びとなり，実に 4 年越しの開催となった。

ここでパーティーの印象記の前に大谷先生のご略歴を記したい。大谷先生は 1979 年に金沢大学大学院工学研究科化学工学専攻をご卒業後，シラキュース大学に進学され，1982 年に Ph.D を取得，同年から金沢大学助手に就任された。1998 年に教授となられてからは，同大学の自然科学研究科副研究科長，理工研究域自然システム学系学類長，学長補佐，副学長といった学内要職を務められた他，アジアエアロゾル研究連合（Asian Aerosol Research Assembly）会長，日本エアロゾル学会会長等を歴任された。学部生時代に故 江見準先生の研究室に配属されてから一貫してエアロゾル，エアフィルターの研究を実施された同分野の第一人者である。ご退職後は，2020 年 7 月 1 日付で JSPS バンコク研究連絡センター長に着任され，ASEAN の中心となるタイのバンコクにオフィスを構え，日本の大学の国際化に貢献しておられる。

さてパーティーの印象記に戻りたい。前述の通り大谷先生は普段タイにおられるためなかなか開催のタイミングが無かったのだが，2024 年 8 月に 1 週間ほど日本に戻られるということで，そのタイミングで開催することとなった。パーティーの企画は金沢大学の瀬戸先生が中心となり，同大学の玉館先生および秘書の井上氏，富山高専の山本先生，筆者が大谷先生のご希望を伺いながら準備を進めていった。大谷先生としては，退職から時間が経っていることもあるのであまり堅苦しいものにしたくないというご希望もあり講演や出し物はなし，その代わりに大谷先生が各テーブルを回る（某テーマパークや結婚披露宴のスタイル？）という，退職記念パーティーとしてはおそらく異例のスタイルでの開催となった。また，コロナの影響で人間関係が希薄になっているだろうから，このパーティーをきっかけに同期の集まりなどを開いてもらえればとの思いがあるのとのことで，ごく一部の関係者以外は研究室の卒業生にのみ参加を呼びかけた。その結果，大谷先生の同期からご退職直前の卒業生まで，150 人近い参加者が集まった。

当日は入口看板前で大谷先生とマーシャ夫人にお出迎えいただき（**写真 1**）タイのお土産をいただいた。また，故 江見準先生の遺影が飾られ，天国の江見先生に送るメッセージカードが準備された（集まったメッセージは後日江見先生の奥様に手渡された）。パーティーは大谷先生ご夫妻が会場に入場，記念品および花束贈呈，大谷先生のご挨拶へと進んだ。ご挨拶（**写真 2**）ではご退職後から現在までのお話をいただいた。ご退職がコロナ禍の真っ只中だったこと，その影響でタイへの赴任がなかなか進まず，最終的にタイに行けたのは 10 月になってしまったことなど大変なご苦労をされたとのことであった。特に印象的だったのはタイへの入国時に 2 週間ホテルの部屋から出られず禁酒・禁煙生活をしたことで生活習慣が一新され，極めて健康的な第 2 の人生をスタートされたお話であった。ラジオ体操第 1，第 2，数 km のランニング（！）が毎朝のルーティーンだそうで，退官前よりもパワフルになったと感じたのは筆者だけではないと思う。大谷先生のタイ滞在記は粉体工学会誌 2024

写真 1　大谷先生とマーシャ夫人のお出迎え

写真 2　大谷先生のご挨拶

写真 3　当日の集合写真

年 9 月号に掲載されているのでぜひご一読いただきたい。

その後は乾杯で歓談が始まった。テーブルはおおまかに研究室の卒業年度としたため，懐かしい友人たちと学生時代の話に花が咲いていた。大谷先生がテーブルに到着されると，久しぶりの大谷先生との再会を懐かしむとともに，近況報告や在学時代の思い出話が盛り上がっていた。当初，講演会や出し物などが全くなしで大丈夫だろうかとの心配もあったのだが，全く無用な心配であった。2 時間ほど経ったところで中締めと万歳三唱を行い，参加者で記念撮影を行い（**写真 3**）大谷先生のご退場後に散会となった。帰りは大谷先生と奥様に見送っていただき，近い世代ごとに二次会が開かれた模様で，このパーティーをきっかけに同期の集まりなどを開いてもらえればとの大谷先生の希望は無事達成されたと思われる。もちろん筆者も深夜まで久しぶりの金沢を楽しんだ。瀬戸先生をはじめパーティーを企画いただいた皆様（筆者はほとんど役に立っていなかった），当日写真撮影をご担当いただいた 2015 年度卒業生の福森さんには深く謝意を示したい。

前述の通り大谷先生はまだまだお元気というか，退職前よりも元気な気がしているのはおそらく筆者だけではないと思う。次は叙勲か喜寿か，はたまた全く別のお祝い事があるかわかりませんが，また同じメンバーで集まってお祝いできることを楽しみにしています！

J. Soc. Powder Technol., Japan, **62**, 305–307 (2025)

寄　稿
Commentary

ダイバーシティ推進活動の紹介　第 12 回

研究活動を「続ける」ための，あの手この手

How to“Continue”Research Activities — Especially for Women

岡久 陽子*
Yoko Okahisa

はじめに：研究活動継続支援のためのプログラム

近年，ダイバーシティー推進の流れから，研究者の世界においてもさまざまな事情を抱えながらでも研究活動を継続できるような支援プログラムが存在しています。私も博士号取得後から現在に至るまで，これらの制度を利用しながら，何とか研究活動を続けてくることができました。現代でも特に女性の場合には，博士号取得後のキャリア形成時期に出産や育児などのライフイベントが重なることが多く，研究を継続することが難しいと思う時期もあるのではないかと思います。ぜひさまざまな制度やプログラムの存在をもっと広く知っていただき，これからも有効に使っていっていただきたいと思い，本稿では私がこれまでに利用した制度を経験談と共にご紹介します。

独立行政法人日本学術振興会の制度

私は博士号取得後に現在の所属へ教員として着任するまで，約 9 年間のポスドク生活があり，その期間内に 2 度の出産と育児による休業を経験しました。最初の出産・育児による中断は，日本学術振興会特別研究員 -PD として研究活動をしていた時期でした。特別研究員制度では出産・育児による採用の中断が認められており，出産から最大で 3 年間，自分で設定した期間を「採用の中断」という形で休業可能で，中断した期間分は採用期間が延長されるという仕組みになっています。研究奨励金の支給も中断するため私が申請した当時は休業期間中の収入はまったくない状態になっていたのですが，現在は「女性研究者の出産に伴うキャリア継続支援事業」が開始され，この事業に申請すれば中断期間中の支援助成金という形で収入の確保も可能になっているそうです。したがって手続きをすれば問題なく出産・育児に臨めるはず・・・なのですが，私は最初の出産時には切迫早産で緊急入院となってしまい慌ただしく休業に入ることになりました。また，出産後も思うようにいかないことが多かったことから予定していた休業期間が終わる頃にはすっかり弱気になってしまい，数回にわたる中断期間延長申請を行うことになってしまいました。結果的には，当時の受け入れ教員の先生から力強い励ましとご厚意をいただき，2 年近くの長い休業期間を経て研究へ復帰する決意ができたのですが，今度は自宅から大学までの長い通勤時間が課題になりました。ただ，そこでも受け入れ教員の先生から，「受け入れ先研究室の変更」の申請ができることを教えていただき，ご紹介いただいた自宅近くの大学へ受け入れ先研究室を変更することもできました。予定外の申請を繰り返すことになりましたが，心身ともに負担なく研究を再開・継続することができたことを心から感謝しています。

また，2 度目の出産は海外特別研究員としてフランスに滞在している時期だったのですが，そもそも私が海外特別研究員に申請したきっかけにも「家庭の事情」がありました。第 1 子を出産後に研究を再開してしばらくした頃に会社員の夫がフランスへ駐在員として派遣されることが決まり，せっかくの機会と思い海外特別研究員制度へ応募することにしたのです。この時にもいろいろな先生方のお力添えをいただき，やりたいテーマに合った受け入れ先をご紹介いただくことができました。現在では，出産・育児・看護や介護のために研究を中断した研究者向けの「海外特別研究員 -RRA 制度」も設立されており，個々の家庭の事情に合った制度利用ができるように配慮されているように感じます。

私は海外特別研究員の採用期間の終了前に，特別研究員制度 -RPD という出産・育児による研究中断後に円滑に研究に復帰できるように支援するプログラムに採択され，帰国後にも研究を継続できる状況になっていたのですが，帰国前にフランスで第 2 子を出産することにしたため，日本学術振興会へ対応を相談しました。当初は採用辞退もやむなしかなと思っていたのですが柔軟に対応してくださり，「特別研究員 -RPD の採用開始と同時に休業」という形で研究開始時期を遅らせることができました。

そして帰国後には特別研究員 -RPD として研究を再開

2025 年 1 月 27 日受付
京都工芸繊維大学
（〒 606-8585 京都市左京区松ヶ崎橋上町 1）
Kyoto Institute of Technology
（Matsugasaki, Sakyo-ku, Kyoto 606-8585, Japan）
* 連絡先　okahisa@kit.ac.jp

し，現在の所属である京都工芸繊維大学へ教員として着任することができました。9 年間という長めのポスドク生活になりましたが，その間に出産・育児による休業期間があり，また研究再開後も育児との両立に四苦八苦する生活だったため，思うような成果が得られたとはいえません。ただ，なんとか諦めずに続けてこられたのは，周囲の方々からのお力添えに加えて，いろいろな制度を利用させていただけたからと思います。想定外のことが起こるたびに，自分ではこれまでにあまりない事例だと思って相談したり調べたりの繰り返しだったのですが，それぞれに対応していただける制度がきちんと整えられていたことに救われました。これまでにも同じようなことで困ったり悩んだりした先輩方がいらして，そのたびに乗り越えてこられたのだろうと心強く感じました。

ちなみに RPD の制度は平成 18 年度に創設され，その時期，私は博士課程の学生だったのですが，事務室に貼られたピンク色（！）で作られた RPD 募集のポスターをよく覚えています。おそらく創設当時はおもに女性向けだったことからピンク色で作られていたのだと思いますが，申請資格は「出産した者」だけでなく「養育している者」も含まれるため現在のポスターはピンク色ではなく，男女両方のイラストが描かれるようになっており，これも勝手に心強く思っています。

パリ 5 区 Campus Curie にあるキュリー夫人ことマリー・キュリーと夫のピエール・キュリーの像。キュリー夫人は、「女性」で「外国人」であったことゆえの苦労もあったとのこと。すぐそばの Musee Curie には、彼らのさまざまな功績が展示されている。

学内の制度～男女共同参画推進センターと配偶者同行休業～

おそらくどの大学や研究機関においても，現在ではダイバーシティー推進に関する部署が設置されていると思いますが，本学にも KIT 男女共同参画推進センターが設けられています。具体的な活動としては，育児・介護などと研究活動の両立のために研究補助員を配置する研究支援員制度やベビーシッター育児支援制度などが実施されており，私も研究支援員制度を着任時から継続して利用しています。研究者の実験・調査の補助，データの入力・分析，学会資料や報告書類の作成，そのほか研究業務についての補助を行う支援員を雇用できる制度です。特に化学実験を伴う研究では，実験そのものに係る時間だけでなく，準備と終了後の作業にも一定の時間が必要です。私は研究再開時には前と同じ感覚で実験を開始してしまい，時間が足りなくなって次の日に最初からやり直し・・・ということが多くありました。また子どもが小さい頃は，体調不良による予定変更も珍しくないことでした。育児期間中はどうしても時間が限られるので，実務をフレキシブルに補助してもらえる存在がいるというのはありがたく，今後も広く利用されていくべきと感じています。

もう一つ最近の出来事なのですが，「家庭の事情」で利用した制度がありましたのでご紹介します。こちらも学内の制度なのですが，育児休業や介護休業と並んで配偶者同行休業というものが存在します。「外国での勤務などにより，外国に住所または居所を定めて滞在するその配偶者と，当該住所または居所において生活を共にするために休業することができる」という制度で，大学にある特別な制度というわけではなく，最近ではいろいろな会社の従業員や公務員の方々が似たような制度を利用可能です。わが家は会社員の夫が 2 度目のフランス駐在になった際，「単身赴任」ということにしたのですが，子どもらの希望もあり短期間だけでも家族で生活するため，私がこの配偶者同行休業を取得することに決めました。これには「業務の運営に支障がないと認められる」ことが必要で，学系長や学域長の承認を得る必要があります。取得の 1 年ほど前から講義や研究室の運営に関していろいろな先生方に相談し，単独で受け持っている講義がない時期に 3 か月間の休業を取得，家族で共に過ごすことができました。休業期間中も研究室の学生とはオンラインで随時，ミーティングができたので研究自体が滞ることはなかったのですが，実験室の管理を含めた現場での対応は同じ研究室の先生へお任せすることになり，負担を増やしてしまうことになりました。また，共担で受け持っている講義は，担当時期を変えていただいたり，担当の実習は欠席させていただいたり・・・お願いした先生はどなたも嫌な顔一つせず引き受けてくださいましたが，やはり心苦しく感じました。ご厚意に甘えるというやり方ではなく，育児や介護休業も含め，こうした一時的な欠員ができたときに増えた負担を引き受けた方には何か手当を出せるような仕組みがあるとよいのではないかと考えます。

ちなみに，配偶者同行休業を取得して同行して来られている方と 10 年前には 3 年間の滞在中に 1 名しかお会

いしなかったのに，今回の滞在では 3 か月で複数名の方とお会いしました。しかも，それが女性ばかりではなくなっており，時代の変化を実感しました。

おわりに

いろいろな支援制度ができてきているものの，きっと当事者の方にとっては不満や足りない部分が多くあるのが現状だと思います。また，自分ではいつまでも当事者気分でいたのですが，高校生になった娘や研究室の学生らと話をしたりしていると，古い価値観に縛られていたことに気づかされたりもします。今後は，支援制度のさらなる拡充についての働きかけはもちろんのこと，制度化できないソフト面のフォローなど，これからいろいろなライフイベントを経験される方々に対して，何らかの力になれればと考えています。次は岐阜大学工学部准教授の吉田道之先生にバトンをお渡しします。

令和 7（2025）年度（公財）ホソカワ粉体工学振興財団 KONA 賞・奨励賞・研究助成などの公募

公益財団法人 ホソカワ粉体工学振興財団

2025 年度 KONA 賞と研究助成，研究奨励賞等を下記の通り公募しますので，奮ってご応募ください。

記

	事　業	件数・金額	公募期間	決定時期	贈呈時期
①	粉体工学に関する優れた研究業績に対する褒賞	KONA 賞　原則 1 名 副賞 100 万円	4/30 〜 6/27	12 月上旬頃	令和 8 年 3 月頃
②	粉体工学に関する研究のための研究費助成	1 件最高 100 万円 20 件程度			
③	粉体工学に関する奨励賞	ホソカワ研究奨励賞 原則 1 名 副賞 50 万円			
④	粉体工学に関する研究者育成の援助	1 件 30 万円　5 件程度 総額 150 万円程度			
⑤	粉体工学に関するシンポジウム等開催の援助	1 件 50 万円〜 100 万円 総額 100 万円程度			

（ご注意）公募締切日に，ご注意ください。なお，上記の助成等の贈呈件数および金額については，変更する場合がありますのでお含みおきください。また，助成対象の期間は，原則 2026 年 4 月〜翌年の 3 月までとなっています。

ご応募には，所定の推薦書あるいは申請書の提出が必要です。財団ホームページ内の助成事業サイト（https://www.kona.or.jp/jp/grants/）からダウンロードしてください。または下記にご連絡ください。

＜推薦書・申請書の提出先および連絡先＞

（公財）ホソカワ粉体工学振興財団事務局
〒573-1132 大阪府枚方市招提田近 1-9
TEL 072-867-1686; FAX 072-867-1658
E-mail: contact_zagrant@hmc.hosokawa.com
URL: https://www.kona.or.jp

注意事項：本年度より，助成期間並びに実施報告書（会計報告書含む）等の提出期限が変更と成りました。詳細は募集要項よりご確認下さい。

2025 年度粉体工学情報センター
研究助成（第 21 回）対象者決定のお知らせ

粉体工学情報センターは 1985 年 8 月 29 日, 日本の粉体工学と粉体工業技術の振興に寄与することを目的として（一社）粉体工学会・日本エアロゾル学会・（一社）日本粉体工業技術協会の多大なご協力のもとに，当時の日清製粉株式会社（現・株式会社日清製粉グループ本社）および日清エンジニアリング株式会社の援助により設立されました。

粉体工学情報センターでは，支援活動として 2005 年度より研究助成を開始いたしました。一般に話題性のある先端技術分野への研究助成は多く行われていますが，本助成は基礎的な研究分野，特に単位操作に関わる萌芽的・独創的な研究を奨励することをその趣旨とし，粉体工学研究の一層の発展を企図するものです。

2025 年度の助成の対象とする研究主題（順不同，敬称略）

申請者（＊ 1）	所属（＊ 2）	研究テーマ
石神 徹	広島大学 准教授	粒子流体シミュレーションと AI 技術によるエアフィルタ微細構造の最適設計手法の開発
中川 究也	九州大学大学院工学研究院 教授	真空噴霧凍結乾燥プロセスの特性解明：作製粉体の物理化学特性を基礎とする評価
平野 知之	広島大学大学院先進理工系 科学研究科　助教	燃焼反応器を用いた新規粉体球状化プロセスに関する基礎研究
安藤 肇	産業医科大学作業関連疾患予防学 研究室学内講師	職業性食品粉じんばく露のリスク評価と防止対策
植田 圭祐	千葉大学大学院薬学研究院 助教	難溶性機能性食品成分の経口吸収改善を目的としたポリマー被覆メソポーラスシリカ固体分散体開発
石井 大佑	名古屋工業大学 准教授	疎水性ナノ粒子複合電解紡糸ナノファイバー膜によるナノエマルション分離
久保 優	広島大学 准教授	噴霧熱分解で合成した階層型細孔を有する MOF 由来カーボンのスーパーキャパシタ電極特性
池田 真由美	和歌山県立医科大学 助教	多孔質酵素抵抗性デンプンの細孔径制御に伴う漢方麝香の大腸送達技術の確立
平尾 岳大	広島大学大学院先進理工系 科学研究科　准教授	”力 ” を可視化する有機ナノ粉体の合成
冨樫 貴成	山形大学理学部 教授	溶融金属錯体内でのナノ粒子テーラーメード擬似的液相合成法の発展

＊ 1 選考方法：粉体工学情報センターの研究助成委員会で選定した審査委員の評価を基に研究助成委員会で選考し，理事会の承認を経て決定します。

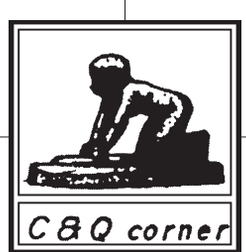
＊ 2 所　　属：2025 年 3 月 1 日時点の所属です。

※過去の対象者のリストおよび研究助成の終了報告書は，粉体工学情報センターのホームページを参照して下さい。
【https://www.icpt.jp/】

※上記の件に関するお問い合わせは，粉体工学情報センター事務局までメールにてお願い致します。
【johocenter@n-icpt.com】

国際会議あるある？

2024年12月1日から4日までオーストラリア･シドニーで開催されたに The 9th Asian Particle Technology Symposium（APT2024）に参加してきました。今回はプログラムがなかなか公開されなかったため，私と同様，HPの12/1～4と言う日程から11/30夜羽田発，12/4夜シドニー発の便を予約した方が多かったようです。結果，11/30羽田の搭乗口前は知った日本人ばかりでした。最終日12/4も午前で会議が終了してしまい，夜の飛行機まで時間が空いてしまうことに。数名で相談した結果，私たちは動物園で時間を潰すことにしました。動物園に行ってびっくり，同様に考えた人が多く，日本人ばかり。そういえば，アメリカ･サンディエゴで開催された国際会議に参加した際，午後プログラムがない日があり，せっかくなのでメキシコに入国し，国境すぐの街･ティファナへ遊びに行きました。歩いていると，こちらに向かってくる日本人が・・・近づくと，知っている先生たちで，笑顔で「何遊んでいるの？」と私に言ってきました。2012年にシンガポールで開催されたAPTでもそうです。最終日の閉会後，翌日便だった私はせっかくなのでナイトサファリに一人で行ってきました。日本語トラムの列に並んでいたところ，肩をトントンと叩かれ，振り返ると「何遊んでいるの？」とまたまた知った日本人の先生たちでした。バンケットで日本人同士が集まるというのは“国際会議あるある”と思いますが，学会ついでに日本人が行くところが同じと言うのも“国際会議あるある”でしょうか？（くじら）



強　弱

テレビの情報番組でも取り上げられていたので，ご存知の方も多いかと思うが，最近は「強弱」の意味をこれまでとは異なる解釈で使う人が増えているそうだ。例えば，「1000円弱」とか「1000円強」がそれだ。元来，前者は1000円より少し安い金額，後者は1000円より少し高い金額を意味するというのが辞書の記載だ。これら表現を「弱い1000円代」，「強い1000円代」と解釈しているのであろうか，前者を1000円より少し高い金額，後者を1000円より十分高い金額を意味すると誤解しているようだ。若い世代ほど，このような誤解をしている割合が高く，10代では30%，30代でも18%が誤解しているという調査結果もあるようだ。ネットやAIの利用が進み，言葉を理解する経験が減少すると共に，その過程で適切なアドバイスやリソースから学ぶ機会も減少することで，言葉に関する察しが悪くなっていると分析する方もいらっしゃるそうだ。一方，言葉は絶えず変遷するもので，今はその解釈が変わる過渡期と考えることもできる。世代による言葉の認識の違いが，あらぬ誤解を生まないよう注意したいものだ。粉体工学用語にも世代による認識の違いはあるのだろうか？　（キニホロ）

百年前のアイオーユー公式

分級操作の効果を評価しようとする実用的な公式として，南アフリカの学会でホワイト（Henry Arthur White）という人物が1920年代の半ばに提案して“I.O.U. formula”と名付けた（初出は *J. Chem. Metall. Min. Soc. S. Afr.*，第25巻223頁）。もし『粉体工学用語辞典』の「分級効率」の記号で表現すれば $(R_F-R_B)(R_A-R_F)/(R_F-R_F^2)(R_A-R_B)$ と書けるが，実際には独特な記号で $(i-o)(u-i)/(i-i^2)(u-o)$ と表記された。分数と見なせば，時計回りに“*i*, *o*, *u*”の順に記号が現れるので覚えやすく，また手計算もしやすかったはず。

このI.O.U.公式という愛称は“I owe you.”という一般的な英語表現とかけたダジャレにもなっていたはず。ホワイトは，この便利な公式を英米の色々な人物たちのおかげで大した苦労もせずに作れたことへの照れくささを表現したようだ。だからこそ，業績として学会から評価してほしいなどとは決して主張しないと断りを入れていたのだろう。実は既存の公式（*Trans. IMM*，第27巻111頁）の変形案に過ぎないのだが，誌面では曖昧になっていて問題だと思う。

この公式を解説する一世紀前の文献，オンラインで閲覧しやすい資料としては，例えば米国ユタ大学のウェブサイト（https://newspapers.lib.utah.edu/ark:/87278/s6x64v35）から“*The Salt Lake Mining Review*”誌の1925年5月30日号13頁を開いてもらうといい。なお半世紀前の1975年5月，南アの学会誌の中では，まだホワイトによりもたらされたI.O.U.公式の存在が紹介されていたりもする（*J. S. Afr. Inst. Min. Metall.*，第75巻284頁）。　（MW）

黒色火薬 / 火薬類

4回に分けて花火の話をしてきました。その中で，花火に使用されている黒色火薬の話もしてきました。黒色火薬は火薬類の一つです。火薬類は「利用価値がある爆発物」であり，「外部から熱，衝撃，その他のエネルギーを受けると急激な化学変化を起こし，短時間に多量の熱とガス（気体）を発生して，その体積の急膨張によって外部に対して大きな仕事をするもの」です。したがって，価値がない爆発物は火薬類ではありません。

黒色火薬は最も古い火薬であり，8世紀頃に中国で発明されて，ヨーロッパに伝えられたというのが通説です。日本には火縄銃とともに伝来したと言われており，弾の発射薬として使われていました。そしていろいろな用途に使用されるようになり，花火へも応用されるようになりました。黒色火薬がどうやって火花を作り出すのか？発色させるのか？飛翔させるのか？などに子ども達が興味・疑問を持ち，それらの理由を知りたいと思うことは自然なことでしょう。ネットや本で調べるだけなら良いのですが，コンビニなどでも手に入るがん具煙火を絶対に分解して調べようとしないで下さい。非常に危険です。場合によっては，死に至るような大きな事故になります。がん具煙火は正しく使わなければ危険であるという認識を持って，安全に十分に留意して楽しんで下さい。

最近は黒色火薬を使った爆発テロが起きており，物騒な世の中になってきました。黒色火薬を含んでいる花火の使用に過度な制限を掛けられることなく，花火が一般の娯楽として楽しまれるような世の中であって欲しいです。火薬類が正しくかつ有効に利用され，生活を豊かにすることを願っています。　（忍者）

一般社団法人　日本粉体工業技術協会　本部：〒600-8176 京都市下京区烏丸通り六条上ル北町 181 番地　第 5 キョートビル 7 階
TEL　075-354-3581　FAX　075-352-8530
一般社団法人　日本粉体工業技術協会　東京事務所：〒113-0033 東京都文京区本郷 2-26-11　種苗会館 5 階
TEL　03-3815-3955　FAX　03-3815-3126

◆ 協会行事日程のご案内

最新情報は協会サイトからご確認ください。
行事の詳細は京都・協会本部または東京事務所にお問合せ下さい。

行　事　名	月　日	場　所	備　考
粉体入門セミナーⅠ（第 74 回）「粉体とは何だろうか？～その性質と評価～」	6 月 4 日（水）～ 5 日（木）	東京／アーバンネット神田カンファレンス	10:00 ～ 17:00
粉体入門セミナーⅡ（第 75 回）「粉をつくり，そして利用するために」	6 月 18 日（水）～ 19 日（木）	東京／アーバンネット神田カンファレンス	10:00 ～ 17:00
粉体入門セミナーⅢ（第 76 回）「粉をあやつる」	7 月 16 日（水）～ 17 日（木）	東京／アーバンネット神田カンファレンス	10:00 ～ 17:00
粉じん爆発・火災安全研修［初級・基礎編］	9 月 1 日（月）～ 2 日（火）	WEB または ハイブリッド開催予定	
粉体技術者養成講座　粉体ハンドリング	9 月 8 日（月）～ 9 日（火）	名古屋／（株）ナノシーズ	
粉体技術者養成講座　混合	10 月 3 日（金）	神奈川／（株）徳寿工作所	
POWTEX2025	10 月 15 日（水）～ 17 日（金）	大阪／インテックス大阪	
粉体技術者養成講座　乾燥	10 月 30 日（木）～ 31 日（金）	静岡／（株）大川原製作所 技術センター	
粉体技術者養成講座　粒子加工	11 月 6 日（木）～ 7 日（金）	兵庫／（株）パウレック	
粉体技術者養成講座　粉砕	11 月 12 日（水）～ 13 日（木）	東京／ヴァーダー・サイエンティフィック（株）	
粉体技術者養成講座　集じん	12 月 15 日（月）～ 16 日（火）（予定）	名古屋／ウインクあいち（予定）	
粉体技術者養成講座　ろ過	2026 年 1 月後半	大阪／関西金網（株）	
第 73 回粉体技術専門講座【混合・成形分科会】	2 ～ 3 月頃	未定	

◆ 分科会の開催案内

会員の方ならどなたでも参加できます。非会員の方でも参加できますので，参加を希望される場合は，各分科会の申込み先あるいは協会本部までお問合せください。分科会の活動状況と詳しい開催案内は協会ホームページでご確認ください。

行　事　名	月　日	時　間	場　所
合同分科会（混合・成形＆湿式プロセス）	5 月 20 日（火）	13:20 ～ 17:00（見学会＆講演会） 17:30 ～ 19:00（交流会）	埼玉／佐竹マルチミクス（株）攪拌技術研究所
第 1 回粉砕分科会	6 月 11 日（水）	13:00 ～ 17:20 頃（見学会＆講演会） 17:30 ～ 19:00（懇親会）	見学・講演会：共栄製茶（株）京都テクノセンター 懇親会：居酒屋つのふり
第 1 回集じん分科会	6 月 16 日（月）	13:00 開始予定	岡山／岡山中尾フィルター工業（株）笠岡工場
第 1 回乾燥分科会	6 月 23 日（月）	13:00 ～ 19:00	北海道／北海道立工業技術センター
合同分科会（湿式プロセス＆食品粉体技術）	7 月 11 日（金）	調整中	北九州／ TOTO（株）本社・工場

分科会開催案内

https://appie.or.jp/introduction/organization/technical_groups/

◆ 粉体関連総合情報誌「粉体技術」

日本粉体工業技術協会が発行する月刊「粉体技術」は，粉体に関わるあらゆる技術，粉体領域に関する最新情報，マーケティング・マネージメントおよび海外情報など幅広い内容を網羅した**粉体関連産業に携わる方々への総合情報誌**です。一般の書店などでは容易に入手できませんので，ぜひ予約購読をお願い致します。

【最新号】2025 年 5 月号「粉体ハンドリング分科会」

https://appie.or.jp/shirumanabu/publishing/funtaigijyutu/

一般社団法人粉体工学会第 5 回功績賞受賞者

齋藤 文良 氏

略　　歴

1970 年 3 月	山形大学工学部化学工学科卒業
1972 年 3 月	山形大学大学院工学研究科化学工学専攻修士修了
1972 年 4 月	山形大学工学部　助手
1982 年 3 月	工学博士（東北大学）
1982 年 7 月	横浜国立大学工学部　講師
1987 〜 1988 年	英国 University of Birmingham 客員博士研究員
1989 年 12 月	東北大学選鉱製錬研究所　助教授
1991 年 4 月	東北大学選鉱製錬研究所　教授
2001 年	仏国 Ecole des Mines d'Albi 客員教授
2005 〜 2010 年	東北大学多元物質科学研究所　所長
2012 年 3 月	東北大学定年退職，同年 4 月，同大学名誉教授
現在	中国河北省外国人専門家（Foreign Expert），仙台市地域企業課題解決マイスター，東経連ビジネスセンター技術評価グループフェロー

授　賞　理　由

齋藤文良氏は，粉砕の基礎研究をはじめ，粉砕によって発現するメカノケミストリーの基礎と応用について幅広く研究し，その発展に非常に大きな貢献をしてきた。例えば，粉砕によって起きる固相反応による機能性材料の合成の研究では，機能性複合酸化物のメカノケミカル直接合成や酸化物への微量な非金属元素のメカノケミカルドーピングによる触媒合成がある。粉砕による無定形化や固相反応の達成とその後の化学的・物理的処理による有価物分離・回収の研究においては，三波長型廃蛍光管からのレアメタルの選択分離回収法を提案し，NEDO プロジェクトにも採択され，その成果を挙げている。さらに，メカノケミカル固相反応を利用した研究として，PVC などのハロゲン含有樹脂の酸化カルシウムなどの無機物による脱塩素・脱ハロゲン化反応と水洗処理による樹脂の高付加価値化など，メカノケミカル固相反応と化学的・物理的処理との組み合わせによる新しい資源処理プロセスを提案した研究が多くある。DEM シミュレーションを利用した粉砕とメカノケミカル効果の最適化操作条件の決定の研究では，粉砕機内の媒体運動に着目し，媒体の運動エネルギーがメカノケミカル効果に対して重要な要素であることを見出し，これにより粉砕やメカノケミカル処理における最適な操作条件の設定やスケールアップ法を提案している。

このような研究成果は，国内外の権威ある学術誌に 289 編にのぼる原著論文として発表されるとともに，総説等 183 編，著書編書 31 編を公表している。それらは粉体工学分野だけでなく種々の工学分野で高く評価され，化学工学会論文賞，同粒子・流体プロセス部会 フロンティア賞，資源・素材学会論文賞，ホソカワ粉体工学振興財団 KONA 賞，日本鉄鋼協会ギマラエス賞，など数々の賞を受賞し，Czech Society of Chemical Engineering：Honorary Membership of the CSCHE（チェコ化学工学会名誉会員）Award や化学工学会 創立 75 周年功労賞なども受賞している。

粉体工学会には 1988 年 8 月 22 日に入会し，常任委員（1993–1998），評議員（1999–2001），理事（2003–2010），副会長（2007–2008），企画委員会委員長（2007–2008），参事（2011–2020）を歴任している。また，日本粉体工業技術協会理事，化学工学会粒子･流体プロセス部会副部会長，同部会長，資源･素材学会理事，同東北支部長，粉体工学情報センター理事，ホソカワ粉体工学振興財団評議員など粉体工学が関わる学協会等において様々な役職を歴任し，粉体工学の発展に大きく寄与してきた。さらに，粉砕やメカノケミストリーなどの著作を通じて当分野の発展に貢献すると共に，25 名（内留学生 12 人）の博士課程等の学生の研究指導を行い，粉体工学研究者の養成にも尽力した。

以上のように，齋藤文良氏は，粉体工学会の学会活動，学会誌，集会行事などを通じて粉体工学の発展に顕著な貢献が認められたので，粉体工学会功績賞を授与する。

2024 年度（第 43 回）粉体工学会論文賞受賞論文および受賞者

電気等価回路インピーダンストモグラフィ（EEC-EIT）による 正極スラリー混合中のスラリー内部構造のインライン可視化

金本 泰地，川嶋 大介（千葉大学），Prima Asmara Sejati（千葉大学・Universitas Gadjah Mada），
武居 昌宏（千葉大学）

略　歴

金本 泰地

2024 年 3 月　千葉大学 工学部 機械工学コース 卒業
2024 年 4 月　千葉大学 大学院融合理工学府 基幹工学専攻 機械工学コース 入学
現在に至る

川嶋 大介

2012 年 3 月　首都大学東京 都市教養学部理工学系 機械工学コース 卒業
2014 年 3 月　首都大学東京 理工学研究科 機械工学専攻博士前期課程 修了
2017 年 3 月　首都大学東京 理工学研究科 機械工学専攻博士後期課程 修了
2017 年 4 月　千葉大学 大学院工学研究院 特任研究員
2024 年 4 月　千葉大学 国際高等研究基幹 特任助教
2024 年 4 月　千葉大学 大学院工学研究院 助教
現在に至る

Prima Asmara Sejati

2007 年 11 月　Associate Degree. Graduated from Department of Physics, Faculty of Mathematics and Natural Sciences, Universitas Gadjah Mada, Indonesia
2010 年 08 月　Bachelor Degree. Graduated from Electrical Engineering and Information Technology Department, Faculty of Engineering, Universitas Gadjah Mada, Indonesia
2015 年 08 月　Master Degree. Graduated from System Engineering, Faculty of Engineering, Universitas Gadjah Mada, Indonesia
2022 年 09 月　Doctoral Degree. Graduated from Mechanical Engineering, Graduate School of Science and Engineering, Chiba University, Japan.
2022 年 10 月　千葉大学 大学院工学研究院 特任研究員
2023 年 04 月　千葉大学 大学院工学研究院 特任助教
現在に至る

武居 昌宏

1995 年 3 月　早稲田大学 大学院理工学研究科 材料及び資源工学専門分野博士後期課程修了 博士（工学）
2007 年 8 月　英国ロイヤルソサイティ Short Visits Scheme による 英国リーズ大学客員研究員
2009 年 4 月　日本大学 理工学部機械工学科 教授
2011 年 4 月　千葉大学 大学院工学研究院 教授
現在に至る

授　賞　理　由

今日のリチウムイオン二次電池（Lithium Ion Battery, LIB）の技術革新は，粉体技術に支えられていると言っても過言ではない。特に正極製造工程において，撹拌中の正極材料スラリー内部構造は LIB の性能に大きく影響することが知られており，正極活物質であるコバルト酸リチウム（$LiCoO_2$）粒子が凝集せず均質に分散し，かつ導電補助剤であるカーボンブラック（Carbon Black, CB）粒子が $LiCoO_2$ 粒子の周囲に分散・付着した異種粒子間ネットワーク形成が，容易な電荷の移動を促すために必要とされる。

著者らは，非定常・非一様に変化する異種粒子間ネットワークの 構造を，電気等価回路インピーダンストモグラフィ法（EEC-EIT 法）を用いて，インライン可視化することを試みた。トモグラフィ実験を行って抵抗要素を詳細に検討することで，混合時間の増加とともに CB 粒子が $LiCoO_2$ 粒子間に浸透し，添加剤であるポリフッ化ビニリデン（PVDF）とも相互作用することで，CB-PVDF 凝集体の形成が起こる過程を捉えている。また，撹拌速度により容器内でこれら凝集体の形成される場所が異なることも明らかにしている。これら異種粒子間ネットワークの形成は走査型電子顕微鏡観察の結果からも裏付けられており，時々刻々と変化するスラリー内部の状況を捉え，LIB の性能と結びつける重要な指針を与えている。

以上のように，本論文は，LIB 正極製造過程におけるスラリーの経時的な変化をリアルタイムに捉え，さらにはネットワークの形成状態と LIB 性能とを直接的に相関づける手法を提案したものであり，学術的に優れた論文である。よって，今後の粉体工学の発展に寄与するところが多大であると考えられるため，粉体工学会論文賞に値すると判断した。

掲載誌：粉体工学会誌 第 61 巻 7 号 pp. 413–426, 2024 年

2024 年度（第 23 回）粉体工学会 APT 賞（APT Distinguished Paper Award）受賞論文および受賞者

A direct numerical simulation study on combustion and NO formation of coal/ammonia co-firing flames

Jiangkuan Xing (Kyoto University), Kun Luo (Zhejiang University), Ryoichi Kurose (Kyoto University)

略　歴

Jiangkuan Xing
2020 年 6 月　浙江大学（中国）エネルギー工学部 Ph.D. 取得
2020 年 7 月　同上　研究員
2021 年 6 月　京都大学大学院工学研究科 JSPS 外国人特別研究員
2023 年 6 月　同上　特定研究員
2024 年 10 月　同上　特定助教
現在に至る

Kun Luo
2005 年 3 月　浙江大学（中国）エネルギー工学部 Ph.D. 取得
2005 年 3 月　同上　講師
2006 年 12 月　同上　准教授
2010 年 12 月　同上　教授
2024 年 10 月　同上　学部長，教授
現在に至る

Ryoichi Kurose
1998 年 3 月　九州大学大学院工学研究科化学機械工学専攻 博士後期課程修了（九州大学博士（工学））
1998 年 4 月　財団法人電力中央研究所 研究員を経て主任研究員
2006 年 3 月　同上　退職
2006 年 4 月　京都大学大学院工学研究科 助教授を経て准教授
2017 年 7 月　同上　教授
現在に至る

授　賞　理　由

石炭 / アンモニア混焼（Coal/ammonia Co-firing; CACF）は，脱炭素社会の実現に向けて喫緊に対応可能な経済的かつクリーンな燃焼技術として，有望視されている。本論文では，時間発展する固気分散二相混合層における CACF 火炎を対象に，詳細化学反応機構を用いた 3 次元直接数値シミュレーション（Direct Numerical Simulation; DNS）を実施することにより，その燃焼メカニズムを詳しく調べている。具体的には，石炭燃焼におけるアンモニアの混焼率を 0%（純粋な石炭燃焼火炎），10%, 20% に変化させた 3 ケースについて 3 次元 DNS を実施し，アンモニア付加が火炎の着火挙動と一酸化窒素（NO）の生成経路に与える影響を詳しく調べている。また，石炭揮発ガスとアンモニアの混合燃料の自己着火に関する簡易的な 0 次元計算も実施し，3 次元 DNS の結果との比較を行っている。本研究の 0 次元計算から，アンモニア付加により，着火遅れ時間が劇的に増大することを明らかにしている。また，3 次元 DNS から，石炭の揮発を考慮することにより，その揮発速度は燃焼反応速度に比べて遅いため，それが石炭揮発ガスのアンモニアや酸化剤（空気）との混合，およびその混合ガスの着火を遅らせ律速となり，着火遅れ時間の増大傾向が 0 次元計算に比べて緩やかになることを明らかにしている。さらに，アンモニア付加により，NO の反応経路が大きく変化し，その生成が促進されることを突き止めている。

以上のように，本論文は，石炭 / アンモニア混焼時のアンモニア付加の影響を数値計算によって詳細に検討し，メカニズムを明らかにしたものであり，学術的に優れた論文である。よって，今後の粉体工学の発展に寄与するところが多大であると考えられるため，粉体工学会 APT Distinguished Paper Award に値すると判断した。

掲載誌：Advanced Powder Technology, Vol. 35, Issue 6, 104484, 2024 年

2024 年度（第 23 回）粉体工学会 APT 賞（APT Distinguished Paper Award）受賞論文および受賞者

Effects of coating layer homogeneity of cathode particles on lithium ion battery performance

Tomoya Ohno, Jeevan Kumar Padarti, Shigeto Hirai, Takeshi Matsuda (Kitami Institute of Technology)

略　歴

大野 智也（Tomoya Ohno）
2004 年 3 月　静岡大学 大学院理工学研究科 物質科学専攻 博士後期課程 修了 博士（工学）
2004 年 5 月　静岡大学イノベーションセンター 非常勤研究員
2005 年 4 月　北見工業大学機能材料工学科 助手
2007 年 4 月　Jožef Stefan Institute Postdoctoral Researcher
2007 年 4 月　北見工業大学機能材料工学科 助教
2011 年 4 月　北見工業大学 マテリアル工学科 准教授
2017 年 4 月　北見工業大学工学部 教授（現在に至る）
2024 年 4 月　国立研究開発法人 物質・材料研究機構 客員研究者（現在に至る）

パダリティ・ジーワン・クマル
（Padarti Jeevan Kumar）
2011 年 10 月　Indian Institute of Technology Madras, Project Officer
2012 年 11 月　Sri Venkateshwara University Department of Physics 博士課程修了 Ph.D
2013 年 3 月　NMIT Department of Physics, Assistant Professor
2014 年 12 月　静岡大学電子工学研究所　非常勤研究員
2021 年 4 月　北見工業大学工学部　非常勤研究員
2023 年 4 月　北見工業大学工学部　助教（現在に至る）

平井 慈人（Shigeto Hirai）
2011 年 4 月　スタンフォード大学，Postdoctoral Scholar
2011 年 6 月　エディンバラ大学 大学院 地球科学科 博士課程修了，PhD
2014 年 4 月　Center for High Pressure Science and Technology Advanced Research, Associate Staff Scientist
2014 年 7 月　慶應義塾大学 理工学部 訪問研究員
2015 年 4 月　北見工業大学 マテリアル工学科 助教
2020 年 4 月　北見工業大学 工学部 准教授（現在に至る）
2020 年 4 月　慶應義塾大学 理工学部 訪問准教授（現在に至る）

松田 剛（Takeshi Matsuda）
1988 年 3 月　早稲田大学 大学院理工学研究科 博士後期課程 修了 博士（工学）
1988 年 4 月　早稲田大学理工学部 助手
1995 年 4 月　北見工業大学工学部 助教授
2003 年 4 月　北見工業大学 教授
2025 年 3 月　定年により退職

授　賞　理　由

リチウムイオン二次電池（LIB）のエネルギー密度向上には，動作電位の高い正極活物質の使用が有効である。しかし，高電位下での電解質の酸化分解や不可逆的な相変化により，LIB のサイクル安定性が低下するという課題がある。この課題に対し，高電位正極粒子表面へのナノスケールでの被覆が検討されているものの，均一かつ均質な被覆が困難であるため，被覆状態が電池性能に及ぼす影響について系統的な理解には至っていない。

著者らは，金属アルコキシド前駆体を用いた被覆手法から，コア粒子（正極活物質）のゼータ電位の pH 依存性を基に前駆体の蒸発速度を調整することでシェル層（被覆層）の構造を制御した。具体的には，コア粒子として正極活物質 $Li(Ni_{1/3}Co_{1/3}Mn_{1/3})O_2$（NCM）を，金属アルコキシド法により合成するシェル材料に Ta 置換 $Li_7La_3Zr_2O_{12}$（LLZTO）を選択し，蒸発速度を 1 ～ 8 mL/min に調整することで均質性の異なる被覆層を有した正極活物質を作製した。被覆層の均質性は蛍光 X 線分析と X 線光電子分光法の検出深さの違いを利用した定量的指標から，被覆率は電気化学インピーダンス分光法で得られた抵抗率からそれぞれ評価した。そして NCM 表面を LLZTO で完全に被覆した均質性の高い正極活物質を LIB に搭載することで，サイクル安定性とレート特性が向上することを見出した。

以上のように，本論文は，コアシェル粒子の作製手法のみならず，被覆層の均質性や被覆率の評価手法も提案したものであり，学術的に優れた論文である。よって，今後の粉体工学の発展に寄与するところが多大であると考えられるため，粉体工学会 APT Distinguished Paper Award に値すると判断した。

掲載誌：Advanced Powder Technology, Vol. 35, 9 , 104608, 2024 年

2024 年度（第 32 回）粉体工学会研究奨励賞受賞者

大崎 修司（大阪公立大学）

「実験・数値シミュレーションを用いた粉体プロセスでの粒子の運動挙動解析に関する研究」

略　　歴

2012 年 3 月　京都大学 工学部工業化学科 卒業
2014 年 3 月　京都大学大学院 工学研究科化学工学専攻 修士課程 修了
2017 年 3 月　京都大学大学院 工学研究科化学工学専攻 博士後期課程 修了
2015 年 4 月 〜 2017 年 3 月 日本学術振興会特別研究員（DC2）
2017 年 4 月 〜 2022 年 3 月　大阪府立大学 大学院工学研究科 化学工学分野 助教
2022 年 4 月 〜 現在　大阪公立大学 大学院工学研究科 化学工学分野 准教授

授　賞　理　由

大崎修司氏は，粉体プロセスにおける粒子運動挙動の解析を実験および数値解析の両面から精力的に取り組んでいる。見据えている応用分野は医薬品製剤，全固体電池，多孔性材料など多岐に渡る。まず粉体圧縮成形プロセスに関して，離散要素法（DEM）を用いた数値解析から，圧縮成形後の粉体層内部構造は粒子の付着性・塑性変形性に強く依存することを見出し，全固体電池の電極作製に関し，新たな製造指針を示した。医薬品製剤の粉体圧縮成形プロセスにおいても，圧縮速度を考慮した有限要素法（FEM）のモデルの開発や，DEM と FEM を組み合わせた多粒子有限要素法を用いた解析も進めている。また，実験と数値解析を組み合わせることで，二軸スクリュー造粒機での粉体充填量や粒子間付着力が造粒およびそれに続く打錠プロセスに及ぼす影響を詳細に解析した。さらに，圧力伝達率測定による混練プロセスの定量的評価手法も提案している。他にも，全固体電池の固体活物質の合成や新規多孔性材料である金属有機構造体（MOF）の粒子合成・造粒プロセスに関する研究も推し進めている。

以上のように，大崎修司氏は，幅広い分野における粉体プロセスに対して，実験および数値シミュレーションを用いた緻密な研究成果を挙げ，全固体電池や多孔性材料などの新たな分野と粉体工学を繋ぐ研究を実施している。したがって，今後の粉体工学の発展に寄与するところが多大であると考えられ，粉体工学会研究奨励賞に値すると判断した。

参考論文（粉体工学会誌，Advanced Powder Technology 掲載のうち第一著者および責任著者）

1. マイクロリアクタを用いた多孔性錯体ナノ粒子合成と吸着特性解析 （粉体工学会誌 第 52 巻 12 号 pp. 707–713, 2015 年）
2. Numerical study on compression processes of cohesive bimodal particles and their packing structure （Advanced Powder Technology, Vol. 32 (5), pp. 1362–1368, 2021 年）
3. 経口徐放性製剤の溶出過程の直接観察と律速段階の解明 （粉体工学会誌 第 59 巻 4 号 pp. 160–166, 2022 年）
4. Effect of fill level in continuous twin-screw granulator: A combined experimental and simulation study （Advanced Powder Technology, Vol. 33 (11), 103822, 2022 年）
5. 圧縮速度を考慮した打錠プロセスの数値解析手法 （粉体工学会誌 第 60 巻 2 号 pp. 79–83, 2023 年）
6. 連続式二軸造粒機における充填率と結合液添加率が造粒プロセスに与える影響に関する実験および数値解析 （粉体工学会誌 第 60 巻 12 号 pp. 720–728, 2023 年）
7. Compression properties of bimodal powders with different plasticities in the elastoplastic powder compression process: A numerical analysis （Advanced Powder Technology, Vol. 34 (12), 104245, 2023 年）
8. Quantitative analysis of wet kneading states by a novel compression test （Advanced Powder Technology, Vol. 35(2), 104336, 2024 年）
9. 離散要素法による塑性変形性の異なる二成分混合粉体の圧縮特性評価 （粉体工学会誌 第 61 巻 3 号 pp. 144–153, 2024 年）
10. Effect of reaction temperature and impact force on formation and particle shape of β-Li_3PS_4 in liquid phase synthesis （Advanced Powder Technology, Vol. 35 (4), 104408, 2024 年）
11. 多粒子有限要素法を用いた粉体圧縮成形プロセスと成形体の圧壊強度試験の数値解析 （粉体工学会誌 第 61 巻 8 号 pp. 486–492, 2024 年）

一般社団法人粉体工学会第 1 回アシザワ粉体工学未来賞受賞者

伊藤 貴章（岐阜薬科大学）

略　歴

2016 年 3 月　名城大学薬学部薬学科　卒業
2020 年 3 月　名城大学大学院薬学研究科　博士課程修了
2020 年 4 月　岐阜薬科大学製剤学研究室　助教着任
現在に至る

授賞理由

伊藤貴章氏は，粉体技術を基盤とした医薬品製剤の研究「医薬品における固形製剤のための新規製造プロセス開発」に取り組み，投与剤形が液体に限られてきた医薬品の粉末製剤化を目指している。

同氏の粉体プロセスに関する研究は，極めて優れたものと認められ，今後の粉体工学会での活躍と粉体工学の未来に貢献することが期待できる若手の研究者であると判断し，アシザワ粉体工学未来賞を授与する。

久志本 築（東北大学）

略　歴

2014 年 3 月　同志社大学理工学部化学システム創成工学科　卒業
2016 年 3 月　同志社大学大学院理工学研究科　修士課程修了
2019 年 3 月　東北大学大学院環境科学研究科　博士課程修了
2019 年 4 月　東北大学多元物質科学研究所　助教着任
現在に至る

授賞理由

久志本 築氏は，粉砕を自在に制御することを目的として「実用的な粉砕理論の構築」の研究に取り組み，粉砕中の粒子の破壊挙動を解析する独自技術を新規に構築するだけでなく，実際に解析も行うことで粉砕場中の粒子の破砕メカニズムを明らかにしてきている。

同氏の粉体プロセスに関する研究は，極めて優れたものと認められ，今後の粉体工学会での活躍と粉体工学の未来に貢献することが期待できる若手の研究者であると判断し，アシザワ粉体工学未来賞を授与する。

今吉 優輔（大阪公立大学）

略　歴

2021 年 3 月　大阪府立大学工学域物質化学系学類卒業
2023 年 3 月　大阪府立大学大学院工学研究科物質科学専攻　修士課程修了
2024 年 4 月　大阪公立大学大学院工学研究科物質化学生命系専攻　博士課程入学（現在在学中）

授賞理由

今吉優輔氏は，粉体の圧縮成形の詳細なメカニズムが未だ十分に解明されていないことに着目し，「微視構造と破壊力学特性評価に基づいた粉体の高速圧縮成形メカニズムの解明」に取り組んでいる。

同氏の粉体プロセスに関する研究は，極めて優れたものと認められ，今後の粉体工学会での活躍と粉体工学の未来に貢献することが期待できる若手の研究者であると判断し，アシザワ粉体工学未来賞を授与する。

李 碩（東京大学）

略　歴

2017 年 6 月　中山大学中法原子力工学技術学院原子力エネルギー・技術学科　卒業
2019 年 6 月　中山大学中法原子力工学技術学院修士課程修了
2022 年 9 月　東京大学大学院工学系研究科原子力国際専攻　博士課程修了
2022 年 10 月　東京大学大学院工学系研究科原子力国際専攻　特任研究員
2023 年 7 月　東京大学大学院工学系研究科原子力国際専攻　特任助教
2025 年 4 月　東京大学大学院工学系研究科原子力国際専攻　助教

授賞理由

李 碩 氏は，「次世代粉体プロセスのためのデジタルツインにおけるサロゲートモデリングフレームワークの開発」の研究に取り組み，粉体シミュレーションにデータサイエンスを導入した研究において成果を挙げている。

同氏の粉体プロセスに関する研究は，極めて優れたものと認められ，今後の粉体工学会での活躍と粉体工学の未来に貢献することが期待できる若手の研究者であると判断し，アシザワ粉体工学未来賞を授与する。

2025 年度　定時社員総会報告

日　　時：2025 年 3 月 29 日（土）13:30 〜 14:30
会　　場：京都経済センター
議　　案：**[決議事項]**
第 1 号議案　2024 年度事業報告および庶務事項報告案
第 2 号議案　2024 年度会計決算報告案
第 3 号議案　名誉会員推薦の件第 4 号議案　理事・監事候補者選任の件
[報告事項]
報告 1　2025 年度事業計画案
報告 2　2025 年度会計予算案

第 1 号議案　2024 年度事業報報告および庶務事項報告

(1)　2024 年度　事業報告

I　　行 事 報 告

	行 事 名	日 時	会 場	参加人数	内 容		備 考
					講 演	その他	
1. 本部行事							
1	春期研究発表会	5.14, 15	姫路じばさんビル（兵庫）	173	79		助成講演：10，一般講演：33 BP 賞対象講演：19 シンポジウム：17
2	粉体工学イブニングセミナー	5.14	姫路じばさんビル（兵庫）	103	1		講師：奥山 喜久夫先生
3	ランチョンセミナー	5.15	姫路じばさんビル（兵庫）	50	2	広告 6	講師： 安田 浩一朗氏（デンソー株式会社）， 市野瀬 拓也氏（ライオン株式会社）
4	第 7 回粉体塾	6.18	京都経済センター（京都）	24	2		講師：松山 達先生，加納 純也先生
5	第 58 回技術討論会	7.25, 26	名古屋工業大学（愛知）	112	48	展示 14 広告 10	一般講演：31 製品紹介講演：13 依頼講演：3，特別講演：1
6	第 59 回夏期シンポジウム	10.4	横浜国立大学附属図書館メディアホール（神奈川）	31	12	招待講演 3 一般講演 9	粉体工学会粉体材料設計研究会，粉体工学会粉体グリーンプロセス研究会と共催
7	秋期研究発表会	11.26, 27	東京ビッグサイト（東京）	261（111 名協会経由）	57		受賞講演：3 一般講演：8 BP 賞対象講演：35 技術セッション：8 シンポジウム：3
2. 地方行事							
8	2024 年度北海道談話会第 1 回	1.26, 27	千歳アルカディア・プラザ（北海道）	34	16	招待講演 1 一般講演 15	共催：化学工学会北海道支部，化学工学会北海道懇話会
9	2024 年度北海道談話会第 2 回	3.6, 7	だて歴史の杜カルチャーセンター（北海道）	153	6		共催：日本海水学会若手会

10	2024 年度第 1 回東北談話会	1.25	東北大学多元物質科学研究所（宮城）	21	3	見学 1	主催：粉砕の高度利用研究会・東北談話会 共催：粉体グリーンプロセス研究会 化学工学会粒子・流体プロセス部会粉体プロセス分科会 資源・素材学会東北支部
11	2024 年度第 2 回東北談話会	7.10	東北大学多元物質科学研究所（宮城）	13	1	見学 1	主催：粉砕の高度利用研究会・東北談話会 共催：粉体グリーンプロセス研究会 化学工学会粒子・流体プロセス部会粉体プロセス分科会 資源・素材学会東北支部
12	2024 年度第 3 回東北談話会	10.2	東北大学多元物質科学研究所（宮城）	11	3	見学 1	主催：粉砕の高度利用研究会・東北談話会 共催：粉体グリーンプロセス研究会 化学工学会粒子・流体プロセス部会粉体プロセス分科会 資源・素材学会東北支部
13	2024 年度第 4 回東北談話会	10.28	東北大学多元物質科学研究所（宮城）	10	2	見学 1	主催：粉砕の高度利用研究会・東北談話会 共催：粉体グリーンプロセス研究会 化学工学会粒子・流体プロセス部会粉体プロセス分科会 資源・素材学会東北支部
14	2024 年度第 5 回東北談話会	11.15	一関工業高等専門学校（岩手）	105	2		主催：岩手化学工学懇話会，一関工業高等専門学校 共催：化学工学会東北支部，粉体工学会東北談話会
15	2024 年度第 1 回関東談話会「粉体工学最新技術シンポジウム」	8.21	工学院大学八王子キャンパス（東京）	176	8	基調講演 1 研究発表 4 技術紹介 4	日本エアロゾル学会と共催
16	2024 年度第 2 回関東談話会講演・見学会	11.8	横浜国立大学常盤台キャンパス（神奈川）	37	4	ラボツアー 1	
17	2024 年度中部談話会見学講演会	9.4	大川原化工機株式会社（静岡）	37	2	1	省エネルギーに貢献する粒子設計・粉体プロセスの薬工連携研究会と共催
18	2024 年度中部談話会研究・技術討論会	11.6	愛知学院大学（愛知）	29	2		
19	西日本談話会 第 1 回講演会	7.22, 23	別府国際コンベンションセンター（大分）	51	5	1	日本粉体工業技術協会・粉体ハンドリング分科会，粉体工学会・機械的単位操作に関する産学連携研究会と共催
20	西日本談話会 第 2 回講演会	12.9	九州工業大学戸畑キャンパス附属図書館（福岡）	21	3		化学工学会・九州支部・北九州化学工学懇話会，九州工業大学と共催

3. 部会・研究会・勉強会・ワークショップ

21	製剤と粒子設計部会第 1 回見学講演会	2.20	スペクトリス株式会社（兵庫）	54	4		
22	製剤と粒子設計部会第 2 回見学講演会	6.11, 12	Messe Frankfurt /ACHEMA 内会場（Frankfurt・Germany）	50	17		
23	製剤と粒子設計部会第 3 回見学・講演会	7.5	株式会社ファンケル美健千葉工場／講演会：東京理科大学 野田キャンパス	56	4		

24	製剤と粒子設計部会 第 2 回 新打錠研究セミナー	9.5	じゅうろくプラザ (岐阜)	97	4	パネル 討論 2 ミニ 講演 4	主催：製剤と粒子設計部会 共催：日本粉体工業技術協会 粒子加工技術分科会
25	製剤と粒子設計部会 第 4 回見学・講演会	10.11	シミック CMO 株式会社富山工場 (富山)	51	4		主催：日本粉体工業技術協会 粒子加工技術分科会 共催：粉体工学会 製剤と粒子設計部会
26	第 41 回製剤と粒子設計シンポジウム	11.12, 13	岡山コンベンションセンター (岡山)	364	35	展示 46 社	解説講演 3 題，受賞講演 2 題， 一般講演 15 演題， 奨励賞対象講演 15 演題 パネル口演・展示 46 社
27	第 15 回標準処方研究フォーラム～マンニトールを賦形剤とする標準処方：その 1 乳糖標準処方との比較を中心に～	12.6	にぎたつ会館 (愛媛)	91	20		解説講演 2 題， 立会実験報告 6 題，まとめ 1 題， パネル口演 11 題
28	第 1 回粉砕の高度利用研究会 第 14 回機能性粉体プロセス研究会	1.25	東北大学多元物質科学研究所 (宮城)	21	3	見学 1	主催：粉砕の高度利用研究会・東北談話会 共催：粉体グリーンプロセス研究会 化学工学会粒子・流体プロセス部会粉体プロセス分科会 資源・素材学会東北支部
29	第 2 回粉砕の高度利用研究会 第 15 回機能性粉体プロセス研究会	7.10	東北大学多元物質科学研究所 (宮城)	13	1	見学 1	主催：粉砕の高度利用研究会・東北談話会 共催：粉体グリーンプロセス研究会 化学工学会粒子・流体プロセス部会粉体プロセス分科会 資源・素材学会東北支部
30	第 3 回粉砕の高度利用研究会 第 16 回機能性粉体プロセス研究会	10.2	東北大学多元物質科学研究所 (宮城)	11	3	見学 1	主催：粉砕の高度利用研究会・東北談話会 共催：東北大学多元物質科学研究所 粉体グリーンプロセス研究会 化学工学会粒子・流体プロセス部会粉体プロセス分科会 資源・素材学会東北支部
31	第 4 回粉砕の高度利用研究会 第 17 回機能性粉体プロセス研究会	10.28	東北大学多元物質科学研究所 (宮城)	10	2	見学 1	主催：粉砕の高度利用研究会・東北談話会 共催：東北大学多元物質科学研究所 粉体グリーンプロセス研究会 化学工学会粒子・流体プロセス部会粉体プロセス分科会 資源・素材学会東北支部
32	粉体プロセスデジタルツイン研究会第 1 回研究会	5.15	姫路じばさんビル (兵庫)	85	17		粉体工学会春期研究発表会「粉体プロセスのシミュレーションベースデジタルツインの実現」をテーマにシンポジウムを開催
33	2024 年度 集じん技術の多機能化研究会 第 1 回講演・見学会	3.13	住友大阪セメント (栃木)	42	1	1	
34	2024 年度 集じん技術の多機能化研究会 第 2 回講演・見学会	7.10	東芝産業機器システム株式会社 三重事業所 (三重)	33	2	1	
35	2024 年度 集じん技術の多機能化研究会 第 3 回講演・討論会	10.21	TKP ガーデンシティ（京都）	34	5	総合 討論	
36	2024 年度第 1 回粉体材料設計研究会 『粉体と芸術の連携を探る』	5.29	横浜国立大学附属図書館メディアホール（神奈川）	21	3		
37	2024 年度第 2 回粉体材料設計研究会	10.4	横浜国立大学附属図書館メディアホール（神奈川）	31	12	招待 講演 3 一般 講演 9	粉体工学会第 59 回夏期シンポジウム，グリーンプロセス研究会と共催

38	2024 年度第 1 回粉体グリーンプロセス研究会	5.29	兵庫県立大学（兵庫） ハイブリッド開催	20	3		共催：粉体粉末冶金協会粉体基礎分科会 粉体工学会粉砕の高度利用研究会 化学工学会粒子・流体プロセス部会粉体プロセス分科会
39	2024 年度第 2 回粉体グリーンプロセス研究会	10.28	兵庫県立大学（兵庫） ハイブリッド開催	80	2	見学 1	
40	第 1 回 省エネルギーに貢献する粒子設計・粉体プロセスの薬工連携研究会 2024 年度若手研究者討論会	9.5	西の家（静岡）	32	10		
41	省エネルギーに貢献する粒子設計・粉体プロセスの薬工連携研究会 第 2 回	10.31	名古屋大学（愛知）	30	3		
42	機械的単位操作に関する産学連携研究会 2024 年度 粉体の機械的単位操作に関する講演会･見学会（第 1 回）	7.22, 23	講演会（7/22） 別府国際コンベンションセンター（大分） 見学会（7/23） 日本製鉄（株）九州製鉄所（大分）	51	5		共催：日本粉体工業技術協会・粉体ハンドリング分科会
43	機械的単位操作に関する産学連携研究会 「粉体の機械的単位操作に関する参加型講演会（第 10 回）」 ～次世代粉体ハンドリング～	11.11, 12	日本大学（東京）	38	6		
44	2024 年度 第 1 回・第 2 回 粉体操作に伴う諸現象に関する勉強会 通称：夏の若手勉強会	8.1–3	ホテルリステル浜名湖（静岡）	41	8		口頭発表：5 ポスター発表：13
45	医薬品共結晶のモニタリングおよび粒子設計ワークショップ 2024 年第 1 回研究会	12.13	鹿児島市中央公民館（鹿児島）	35	6	学生ポスタープレゼン	
46	International Joint Seminar between SPTJ WS for battery production and National Taiwan University	3.27, 28	国立台湾大学（台湾）	32	9		粉体工学会電池製造プロセスに関するワークショップと国立台湾大学の国際ジョイントセミナー
47	第 5 回全固体電池学術行動研究拠点　全固体電池研究セミナー	5.17	大阪公立大学　中百舌鳥キャンパス（大阪）	115	1		
48	第 6 回全固体電池学術行動研究拠点　全固体電池研究セミナー	7.2	大阪公立大学　中百舌鳥キャンパス（大阪）	163	1		
49	第 7 回全固体電池学術行動研究拠点　全固体電池研究セミナー	7.2	大阪公立大学　中百舌鳥キャンパス（大阪）	183	1		
50	第 1 回全固体電池学術行動研究拠点　全固体電池の開発へ向けた基礎講座（全 3 回）	8.27	大阪公立大学　中百舌鳥キャンパス（大阪）	250	1		
51	第 8 回全固体電池学術行動研究拠点　全固体電池研究セミナー	10.18	大阪公立大学　中百舌鳥キャンパス（大阪）	136	1		
52	第 9 回全固体電池学術行動研究拠点　全固体電池研究セミナー	11.19	大阪公立大学　中百舌鳥キャンパス（大阪）	230	1		

4. 特別協賛・共催

53	POWTEX2024 （第 25 回国際粉体工業展東京）	11.27–29	東京ビッグサイト（東京）	13,901	出展社数 282 社	展示小間数 1,070	

5. 共催・協賛・後援

54	最近の化学工学講習会 72 「化学工学系流体シミュレーションの最前線～基礎・実践・将来展望～」	1.15, 16	15 日はオンライン開催 16 日は早稲田大学（東京） ハイブリッド開催				化学工学会関東支部
55	第 36 回 CES21 オンライン講演会　食品分野 × 化学工学の新展開―単位操作からスマートシステムまで―	1.26	大阪公立大学文化交流センター（大阪）				化学工学会関西支部 CES21
56	第 356 回 塑性加工シンポジウム「E-Axle 部品・変速機ギヤ等に関わる機能部品の現状と今後の展望」	2.19	同志社大学今出川キャンパス（京都）				日本塑性加工学会
57	物性 FG セミナー 2023 X 線を用いた原薬・製剤の評価	2.20	タワーホール船堀小ホール（東京）				日本薬剤学会
58	第 17 回シンポジウム 「口腔内速崩壊錠等の現状と展望」	2.22	名城大学薬学部（愛知）				PLCM（耕薬）研究会
59	コロイド先端技術講座 2023 柔らかい多孔性材料	3.14	日本大学理工学部駿河台校舎タワー・スコラ（東京）				日本化学会コロイドおよび界面化学部会
60	表面科学セミナー 2024（実践編）	3.14	大田区産業プラザ PiO（東京） ハイブリッド開催				日本表面真空学会
61	第 41 回空気清浄とコンタミネーションコントロール研究大会	4.16, 17	早稲田大学国際会議場（東京）				日本空気清浄協会
62	第 357 回 塑性加工シンポジウム「スマート工場に向けた DX」	5.16	国立オリンピック記念青少年総合センター（東京）				日本塑性加工学会
63	第 251 回西山記念技術講座	5.24	CIVI 研修センター新大阪東（大阪）				日本鉄鋼協会
64	第 252 回西山記念技術講座	5.31	鉄鋼会館 会議室（東京） ハイブリッド開催				日本鉄鋼協会
65	粒子・流体プロセス技術コース 2024 （第 38 回流動層技術コース）	6.1–7.31	各サテライト実習実施機関 （九州工業大学，新潟大学，群馬大学）				化学工学会粒子・流体プロセス部会流動層分科会
66	第 40 回現代コロイド・界面化学基礎講座　東京会場	6.13, 14	同志社大学東京オフィス（東京）				日本化学会コロイドおよび界面化学部会
67	2024 年度 静電気学会講習会 最新！空気清浄の全て	6.14	オンライン開催				静電気学会
68	熱測定講習会 2024　第 1 回 熱分析基礎講座	6.14	オンライン開催				日本熱測定学会
69	第 40 回現代コロイド・界面化学基礎講座　大阪会場	6.27, 28	大阪産業創造館（大阪）				日本化学会コロイドおよび界面化学部会
70	熱測定講習会 2024　第 2 回 熱分析装置に関する講義 1	7.50	オンライン開催				日本熱測定学会
71	第 35 回キャタリシススクール	7.9–11	東京大学浅野キャンパス武田ホール（東京）				触媒学会
72	第 34 回環境工学総合シンポジウム 2024	7.17–19	高野山大学（和歌山）				日本機械学会
73	熱測定講習会 2024　第 3 回 熱分析装置に関する講義 2	7.19	オンライン開催				日本熱測定学会

74	第 42 回関西界面科学セミナー 界面吸着・付着の最前線 2024 ～基礎現象から応用，製品まで～	7.27	同志社大学室町キャンパス（京都）				日本化学会コロイドおよび界面化学部会関西支部
75	日本結晶学会講習会「粉末 X 線解析の実際」	7.25, 26	東京工業大学大岡山キャンパス（東京）				日本結晶学会
76	第 21 回技術講演会	7.30, 31	国立京都国際会館（京都）				新製剤技術とエンジニアリングを考える会
77	2024 年度 第 1 回 晶析・湿式プロセス合同分科会	7.31	塩事業センター海水総合研究所（神奈川）				日本粉体工業技術協会晶析分科会
78	ISFM2024 第 10 回機能性材料国際シンポジウム	8.2–6	東北大学片平キャンパスさくらホール（宮城）				ISFM2024 組織委員会
79	表面分析実践講座 2024	8.8, 9	日本電子（株）開発館（東京）				日本表面真空学会
80	第 18 回学術講演会	8.90	滋賀県立大学（滋賀）				日本セラミックス協会関西支部
81	第 41 回エアロゾル科学・技術研究討論会	8.20–22	工学院大学八王子キャンパス（東京）				日本エアロゾル学会
82	第 54 回初心者のための有限要素法講習会　第 1 部	8.21, 22	日本材料学会会議室（京都）				日本材料学会
83	熱測定講習会 2024　第 4 回対面実習	8.27	東京理科大学（東京）				日本熱測定学会
84	第 54 回初心者のための有限要素法講習会　第 2 部	8.29, 30	計算科学振興財団（兵庫）				日本材料学会
85	第 43 回初心者のための疲労設計講習会	9.3, 4	オンライン開催				日本材料学会
86	混相流シンポジウム 2024	9.4–6	富山大学五福キャンパス（富山）				日本混相流学会
87	SPring-8 シンポジウム 2024	9.5, 6	九州大学医学部百年講堂（福岡）				SPring-8 ユーザー協同体（SPRUC）
88	第 3 回標準化セミナー　微小粒子の破壊・変形強度の測定方法とその応用展開	9.10	ウインクあいち（愛知）				日本粉体工業技術協会
89	第 48 回静電気学会全国大会	9.10–12	西日本総合展示場（福岡） ハイブリッド開催				静電気学会
90	第 37 回秋季シンポジウム	9.10–12	名古屋大学（愛知）				日本セラミックス協会
91	第 75 回コロイドおよび界面化学討論会	9.17–20	東北大学川内北キャンパス（宮城）				コロイドおよび界面化学部会
92	2024 年度資源・環境関連材料部会講演会「セラミックス関連技術における持続可能な社会に向けた最近の取り組み」	10.4	東京都立産業技術研究センター本部イノベーションハブ（東京）				日本セラミックス協会 資源・環境関連材料部会
93	第 43 回 農薬製剤・施用法シンポジウム	10.10, 11	つくば国際会議場（茨城）				日本農薬学会 農薬製剤・施用法研究会
94	第 78 回表面科学基礎講座 「表面･界面分析の基礎と応用」	11.1–30	オンライン開催（Google Classroom）				日本表面真空学会
95	2024 年度静電気学会講習会「静電気災害の事例と対策（1）～基礎・計測・除電技術，液体災害，粉体災害～」	11.21	オンライン開催				静電気学会
96	2024 年度 第 2 回晶析分科会	11.22	プライミクス株式会社（兵庫）				一社）日本粉体工業技術協会 晶析分科会
97	第 19 回若手シンポジウム ～材料分野の仕事と研究の魅力～	12.2	同志社大学大阪サテライトキャンパス（大阪）				日本材料学会　関西支部
98	Salt & Seawater Science Seminar 2024	12.6	（公財）塩事業センター海水総合研究所（神奈川）				公益財団法人塩事業センター

99	第 30 回流動化・粒子プロセッシングシンポジウム	12.11, 12	キャンパスときめいと（新潟）				押谷 潤（岡山理科大学）
100	第 11 回分散凝集科学技術講座 分散・凝集のすべて －希薄系から濃厚系までのあらゆる分散・凝集現象に関わる研究者・技術者のための最新理論とテクニック－	12.12, 13	オンライン開催				日本化学会コロイドおよび界面化学部会
101	第 55 回エンジニアリングセラミックスセミナー	12.13	東京大学山上会館（東京）				東京大学大学院工学系研究科 吉田英弘研究室
102	CREST「分解と安定化」/ さきがけ「サステイナブル材料」2024 年度合同公開シンポジウム	12.13, 14	オンライン開催（Zoom Webinar）				国立研究開発法人 科学技術振興機構（JST）
103	第 33 回微粒化シンポジウム	12.17, 18	広島国際会議場（広島）				日本液体微粒化学会事務局
104	2024 年度静電気学会講習会「静電気災害の事例と対策（2）～静電気リスクアセスメントの基礎と演習～」	12.18	オンライン開催				静電気学会

II　刊　行　物

		総　頁
1. 粉体工学会誌　第 61 巻，1 号～ 12 号	A4 判	776 頁
2. Advanced Powder Technology Vol.35, No.1 ～ No.12	A4 判	全 12 巻
3. 2024 年度春期研究発表会講演要旨集	B5 判	165 頁
4. 第 58 回技術討論会講演要旨集	B5 判	91 頁
5. 第 59 夏期シンポジウム講演要旨集	PDF 判	25 頁
6. 2024 年度秋期研究発表会講演要旨集	PDF 判	149 頁

（2）2024 年度 庶務事項報告

1）2024 年度　定時社員総会

日　時：3 月 23 日（土）
場　所：京都経済センター
出席者：280 名（出席者 24 名，委任状 256 名）
議　題：
［決議事項］
第 1 号議案　2023 年度事業報告および庶務事項報告案
第 2 号議案　2023 年度会計決算報告案
第 3 号議案　名誉会員推薦の件
［報告事項］
報告事項 1　2024 年度事業計画案
報告事項 2　2024 年度会計予算案

2）理事会

第 1 回
日　時：2 月 17 日（土）
場　所：オンライン
出席者：28 名
議　題：
［報告事項］
報告事項 1 2023 年度第 4 回理事会議事録の確認
報告事項 2 代表理事職務執行状況の定期報告
報告事項 3 2024 年度行事報告・行事予定・本部行事
報告事項 4 2024 年度春期研究発表会・イブニングセミナーの準備状況
報告事項 5 第 58 回技術討論会の準備状況
報告事項 6 第 59 回夏期シンポジウムの準備状況
報告事項 7 各種委員会報告
報告事項 8 地方談話会・部会・研究会・ワークショップ関係
報告事項 9 会員数，会費納入状況
［審議事項］
第 1 号議案 各種行事関係
第 2 号議案 各種委員会関係
第 3 号議案 会員入会承認

第 4 号議案 名誉会員推薦の件
第 5 号議案 2024 年度定時社員総会招集の件
第 6 号議案 2024 年度定時社員総会資料の件
第 7 号議案 事務局職員表彰の件
第 8 号議案 APT 誌編集委員長補佐の件
第 9 号議案 井伊谷賞の件
第 10 号議案 DEM10 準備状況の件
第 11 号議案 粉体に関する討論会幹事会からの申し入れの件
第 12 号議案 その他

第 2 回
日　時：3 月 23 日（土）
場　所：京都経済センター およびオンライン
出席者：27 名
議　題：
［報告事項］
報告事項 1 2024 年度第 1 回理事会議事録の確認
報告事項 2 代表理事の職務の執行状況の定期報告
報告事項 3 2024 年度行事報告・行事予定・本部行事
報告事項 4 2024 年度春期研究発表会・イブニングセミナー等について
報告事項 5 第 58 回技術討論会の準備状況
報告事項 6 第 59 回夏期シンポジウムの準備状況
報告事項 7 2024 年度秋期研究発表会の準備状況
報告事項 8 各種委員会報告
報告事項 9 会員数，会費納入状況の件
［審議事項］
第 1 号議案 各種行事関係
第 2 号議案 各種委員会関係
第 3 号議案 会員入会承認の件
第 4 号議案 日本学術振興会賞の推薦について
第 5 号議案 事務局契約社員の正規社員への移行について
第 6 号議案 非会員の講演申し込みについて

第 3 回
日　時：9 月 7 日（土）
場　所：オンライン
出席者：22 名
議　題
［報告事項］
報告事項 1 2024 年度第 2 回理事会議事録の確認
報告事項 2 代表理事の職務の執行状況の定期報告
報告事項 3 2024 年度行事報告並びに予定報告
報告事項 4 2025 年度行事予定
報告事項 5 2024 年度粉体塾開催報告
報告事項 6 2024 年度秋期研究発表会準備状況
報告事項 7 第 59 回夏期シンポジウム進捗状況
報告事項 8 2025 年度春期研究発表会開催案
報告事項 9 各種委員会報告
報告事項 10 2024 年度会計状況
報告事項 11 地方談話会・部会・研究会・ワークショップ関係報告
報告事項 12 会員数，会費納入状況の件
報告事項 13 会長候補者推薦委員会
報告事項 14 その他
［審議事項］
第 1 号議案 各種行事関係
第 2 号議案 各種委員会関係
第 3 号議案 会員入会承認
第 4 号議案 その他
・学会バンクの導入について
・学会 HP への企業会員リスト掲載について

第 4 回
日　時：12 月 14 日（土）
場　所：京都経済センターおよびオンライン
出席者：27 名
議　題：
［報告事項］
報告事項 1 第 3 回理事会議事録の確認
報告事項 2 代表理事職務執行状況の定期報告
報告事項 3 第 2 回評議員会開催報告
報告事項 4 2024 年度行事開催結果・予定報告
報告事項 5 2025 年度行事予定
報告事項 6 2025 年度春期研究発表会・イブニングセミナー，ランチョンセミナー等について
報告事項 7 DEM10 ＆第 59 回技術討論会の準備状況
報告事項 8 ICCCI2025 ＆第 60 回夏期シンポジウムの準備状況
報告事項 9 各種委員会報告
報告事項 10 地方談話会・部会・研究会・ワークショップ関係報告
報告事項 11 会員数，会費納入状況の件，並びに会員拡大活動状況報告
報告事項 12 2024 年度一般会計決算予測
報告事項 13 2025 年度学会誌広告掲載の状況報告
［審議事項］
第 1 号議案 各種行事関係
第 2 号議案 各種委員会関係
第 3 号議案 2025 年度事業計画案について
第 4 号議案 2025 年度一般会計予算案について
第 5 号議案 名誉会員推薦委員会委員選任の件
第 6 号議案 功績賞推薦委員会委員選出の件
第 7 号議案 学生会員年会費について
第 8 号議案 その他：粉体工学会誌掲載物の転載許可業務委託について

3）評議員会

第 1 回
日　時：5 月 1 日（水）
場　所：オンライン
出席者：36 名

議　題：1. 理事会報告
2. 2024 年度行事報告・予定，本部行事日程について
3. 技術討論会，夏期シンポジウム，秋期研究発表会について
4. DEM10 準備状況について
5. WCPT10 主催について
6. その他（全般的意見交換他）

第 2 回
日　時：10 月 29 日（火）
場　所：オンライン
出席者：48 名
議　題：1. 理事会報告
2. 2024 年度行事報告・予定，本部行事日程について
3. 2025 年度春期研究発表会について
4. DEM10 準備状況について
5. ICCCI2025 について
6. WCPT10 主催について
7. その他（全般的意見交換他）

4）和文誌編集委員会

第 1 回
日　時：3 月 2 日（土）
場　所：8 階会議室およびオンライン
出席者：19 名
和文誌議題 1. 第 61 巻 1 号～ 3 号の割付，第 4 号～ 6 号の仮割付，保管原稿の確認
2. 依頼原稿，特集号について
3. 報告，審議事項，その他

第 2 回
日　時：8 月 3 日（土）
場　所：8 階会議室およびオンライン
出席者：19 名
和文誌議題 1. 第 61 巻 4 号～ 8 号の割付，第 61 巻 9 号～ 12 号の仮割付，保管原稿の確認
2. 依頼原稿，特集号について
3. 報告，審議事項，その他

第 3 回
日　時：11 月 16 日（土）
場　所：8 階会議室およびオンライン
出席者：13 名
和文誌議題 1. 第 61 巻 9 号～ 12 号の割付，第 62 巻 1 号～ 5 号の仮割付，保管原稿の確認
2. 依頼原稿，特集号について
3. 報告，審議事項，その他

5）英文誌編集委員会

第 1 回
日　時：2 月 29 日（木）
場　所：オンライン
出席者：12 名
英文誌議題 1. 審査・編集状況定期報告
2. インセンティブ支給ついて
3. APT 論文賞，APT Outstanding International Contribution 賞の審議
4. 周知事項，その他

第 2 回
日　時：8 月 3 日（土）
場　所：8 階会議室およびオンライン
出席者：16 名
英文誌議題 1. 審査・編集状況定期報告
2. 二重投稿論文の対応について
3. 2023 年インパクトファクターについて
4. Executive Editor（USA）交代について
5. カテゴリー制移行・導入について
6. 周知事項，その他

6）企画委員会

第 1 回
日　時：2 月 10 日（土）
場　所：オンライン
出席者：11 名
議　題：1. 2024 年度春期研究発表会の準備状況
2. イブニングセミナー準備状況
3. ランチョンセミナーについて
4. 第 59 回夏期シンポジウムの準備状況について
5. 第 58 回技術討論会の準備状況について
6. 2024 年度秋期研究発表会について
7. ICCCI2025 の準備状況について
8. DEM10 の準備状況について
9. WCPT10 の準備状況について
10. 研究会・談話会の監事・世話人交代について
11. その他

第 2 回
日　時：3 月 16 日（土）
場　所：オンライン
出席者：10 名
議　題：1. 2024 年度春期研究発表会の準備状況
2. 第 59 回夏期シンポジウムの準備状況について
3. 第 58 回技術討論会の準備状況について
4. 2024 年度秋期研究発表会について
5. 2025 年技術討論会のテーマと担当者について
6. 2025 年度夏期シンポジウムのテーマと担当者について
7. その他

第 3 回

日　時：8 月 21 日（土）
場　所：オンライン
出席者：11 名
議　題：1. 第 59 回夏期シンポジウムの準備状況について
2. 2024 年度秋期研究発表会（大阪）について
3. ダイバーシティ委員会企画について
4. 2025 年度 春期研究発表会について
5. 第 59 回技術討論会について
6. 第 60 回夏期シンポジウムについて
7. 研究会・WS の募集について
8. DEM10 の準備状況について
9. ICCCI2025 の準備状況について
10. WCPT10 の準備状況について
11. その他

第 4 回

日　時：12 月 7 日（土）
場　所：オンライン
出席者：12 名
議　題：1. 2025 年度春期研究発表会の準備状況について
2. DEM10 準備状況について
3. ICCCI2025 準備状況について
4. 2025 年度部会・研究会・地方談話会・WS 活動計画案の検討
5. 学生年会費改定について
6. その他

7）2024 年度会計監査

日　時：2024 年 1 月 31 日（水）
場　所：事務局会議室 オンライン併用
出席者：6 名

会　員　数

2024 年度末	
会員種別	会員数
維持会員	18
賛助会員	70
事業所会員	230
個人会員	366
学生会員	112
図書館会員	21
名誉会員	90
外国在住個人会員	0
計	907

第 2 号議案

2024 年度一般会計予算対比正味財産増減計算書

（2024 年 1 月 1 日より 12 月 31 日まで）

経常収入の部　（単位：円）

科　目	細　目	予算	決算
会費	（小計 a）	24,566,800	22,576,680
	維持会員	1,680,000	1,520,000
	賛助会員	5,180,000	4,900,000
	事業所会員	12,850,000	11,800,000
	個人会員	4,150,000	3,800,000
	学生会員	450,000	365,000
	図書館会員	151,800	141,680
	過年度	55,000	50,000
	その他	50,000	0
行事	（小計 b）	18,160,000	28,580,326
例会	春期研究発表会	950,000	2,370,800
	秋期研究発表会	1,700,000	1,606,900
	技術討論会	950,000	2,320,400
	夏期シンポジウム	800,000	310,000
行事企画	粉体塾	100,000	0
地方談話会	北海道談話会	0	10
	東北談話会	0	20,005
	関東談話会	200,000	56,006
	中部談話会	0	398,000
	西日本談話会	0	0
部会・研究会	製剤と粒子設計部会	13,000,000	20,712,634
・WS 独自予算	粉砕の高度利用研究会	0	110,008
	粉体プロセスデジタルツイン研究会	0	0
	集塵技術の多機能化研究会	10,000	12
	粉体材料設計研究会	0	0
	機械的単位操作に関する産学連携研究会	80,000	180,034
	粉体グリーンプロセス研究会	70,000	50,000
	ソフト粒子・界面研究会	0	0
	粉体操作に伴う諸現象に関する勉強会	300,000	414,003
	注 1）薬工連携研究会	0	31,508
	注 2）共結晶のモニタリングおよび粒子設計 WS	0	6
	電池製造プロセスに関する WS	0	0
寄付金収入	（小計 c）	800,000	2,560,359
	研究会への補助他	800,000	2,560,359
雑収入	（小計 d）	25,608,660	30,170,665
	預金利息	0	38
	論文掲載料	1,400,000	1,303,999
	別刷代	700,000	250,500
	論文賞等への補助金	50,000	0
	協会報告会誌掲載料	1,200,000	1,292,000
	会誌広告掲載料	2,700,000	2,215,125
	粉体工業展協力費	2,000,000	2,000,000
	著作権	15,345,183	20,644,963
	図書	400,000	523,770
	印税	9,873	7,425
	その他	1,003,604	1,195,845
	用語辞典バナー掲載料	800,000	737,000
為替差益	（小計 f）	0	0
他会計からの繰り入れ	（小計 g）	4,511,481	0
経常収入計	（a+b+c+d+e+f+g）	73,646,941	83,888,030
経常外収入		0	0
当期収入計		73,646,941	83,888,030

経常支出の部　（単位：円）

科目	細目	予算	決算
行事支出	（小計 a）	21,100,000	27,280,719
例会	春期研究発表会	1,300,000	1,986,482
	秋期研究発表会	1,650,000	1,185,210
	技術討論会	800,000	1,027,155
	夏期シンポジウム	600,000	212,651
企画行事	粉体塾	100,000	156,071
地方談話会	北海道談話会	100,000	31,210
	東北談話会	100,000	113,845
	関東談話会	300,000	139,146
	中部談話会	100,000	494,305
	西日本談話会	100,000	0
部会・研究会	製剤と粒子設計部会	13,000,000	19,215,605
・WS	粉砕の高度利用研究会	150,000	241,868
	計算粉体力学（前年度終了）	0	660
	粉体プロセスデジタルツイン研究会	150,000	0
	集塵技術の多機能化研究会	140,000	138,000
	粉体材料設計研究会	150,000	22,274
	機械的単位操作に関する産学連携研究会	640,000	735,863
	粉体グリーンプロセス研究会	220,000	141,888
	ソフト粒子・界面研究会	150,000	440
	粉体操作に伴う諸現象に関する勉強会	1,000,000	1,113,766
	注 1）薬工連携研究会	150,000	154,919
	注 2）共結晶のモニタリングおよび粒子設計 WS	100,000	79,361
	電池製造プロセスに関する WS	100,000	90,000
会誌資料発行費	（小計 b）	9,950,000	9,743,962
	印刷補助	7,300,000	7,048,542
	原稿料	800,000	1,083,004
	発送	1,600,000	1,391,316
	和文誌 J-STAGE 電子データ登載	250,000	221,100
委員会費	（小計 c）	10,225,000	6,638,000
	評議員会	100,000	0
	理事会	1,100,000	952,159
	和文誌編集委員会	550,000	489,571
	英文誌編集委員会	5,495,000	3,899,402
	国際交流委員会	700,000	777,633
	広報委員会	40,000	0
	出版委員会	640,000	0
	ダイバーシティ委員会	120,000	121,214
	WCPT 準備委員会	1,000,000	0
	その他の委員会	480,000	398,021
事務局費	（小計 d）	28,154,460	22,008,472
	給料	13,880,000	12,233,845
	通勤交通費	640,000	449,380
	福利厚生	250,000	367,103
	法定福利	1,550,000	1,278,684
	通信費	600,000	359,545
	旅費交通費	50,000	6,560
	備品・消耗品費	1,500,000	202,256
	リース料	151,200	0
	借室料	2,800,000	2,798,388
	光熱水道料	400,000	581,401
支払手数料	web・振込手数料，保守料金等	3,100,000	650,447
	用語辞典 WEB 化費用	200,000	0
	英文誌補助作業料	550,000	383,000
	HP 管理等費用	350,000	738,190
	税理士顧問料等	1,067,000	1,067,000
	社労士顧問料等	300,000	269,500
	PCA 会計ソフト使用料	326,260	326,260
	公租公課	90,000	70,000
	消費税	0	0
	雑費	350,000	226,913
名簿発行費	（小計 g）	0	0
論文賞等費	（小計 h）	500,000	271,963
粉体技術掲載料	（小計 i）	66,000	66,000
他会計への繰入れ	（小計 j）	3,651,481	8,384,081
経常支出計	（a+b+c+d+e+f+g+h+i+j）	73,646,941	74,393,197
経常外支出		0	0
当期支出計		73,646,941	74,393,197
当期収支差		0	9,494,833

注 1）正式名称　省エネルギーに貢献する粒子設計・粉体プロセスの薬工連携研究会
注 2）正式名称　医薬品共結晶の晶析モニタリングおよび粒子設計 WS

貸 借 対 照 表

2024 年 12 月 31 日現在

（単位：円）

科　目	当年度	前年度	増　減
Ⅰ 資産の部			
1. 流動資産			
現金預金	146,078,901	127,659,067	18,419,834
未収金	177,089	0	177,089
前払金	4,618,350	4,618,350	0
談話会	95,515	161,827	▲ 66,312
部会・研究会	857,082	1,110,353	▲ 253,271
短期貸付金	2,400,000	2,400,000	0
仮払金	326,260	326,260	0
流動資産合計	154,553,197	136,275,857	18,277,340
2. 固定資産			
(3) その他固定資産			
保証金	4,274,250	4,274,250	0
その他固定資産合計	4,274,250	4,274,250	0
固定資産合計	4,274,250	4,274,250	0
資 産 合 計	158,827,447	140,550,107	18,277,340
Ⅱ 負債の部			
1. 流動負債			
未払金	258,804	0	258,804
前受金	795,000	60,000	735,000
前受会費	15,140,120	15,855,000	▲ 714,880
預り金	388,219	269,503	118,716
流動負債合計	16,582,143	16,184,503	397,640
2. 固定負債			
借室勘定引当金	4,274,250	4,274,250	0
固定負債合計	4,274,250	4,274,250	0
負債合計	20,856,393	20,458,753	397,640
Ⅲ 正味財産の部			
1. 指定正味財産			
指定正味財産合計	0	0	0
2. 一般正味財産	137,971,054	120,091,354	17,879,700
正味財産合計	137,971,054	120,091,354	17,879,700
負債及び正味財産合計	158,827,447	140,550,107	18,277,340

財務諸表に対する注記

1. 重要な会計方針

①固定資産の減価償却の方法

有形固定資産・・・・定率法による。

無形固定資産・・・・定額法による。

②消費税等の会計処理は．税込方式によっている。

2. 重要な会計方針の変更　　なし

3. 基本財産及び特定資産の増減額及びその残高

基本財産及び特定資産の増減額及びその残高は，次の通りである。　　（単位：円）

科　　目	前期末残高	当期増加額	当期減少額	当期末残高
基本財産	0	0	0	0
小　計	0	0	0	0
特定資産				
事務局整備準備金	28,860,190	666	0	28,860,856
退職積立金	4,807,176	349	0	4,807,525
国際会議準備金	15,419,799	7,885,290	550	23,304,539
特別事業基金	10,159,920	77	550	10,159,447
部会等特別行事準備金	1,460,407	500,135	550	1,959,992
小　計	60,707,492	8,386,517	1,650	69,092,359
合　計	60,707,492	8,386,517	1,650	69,092,359

4. 担保にしている資産　　なし

5. 固定資産の取得価額．減価償却累計額及び当期末残高

固定資産の取得価額，減価償却累計額及び当期末残高は，次の通りである。　（単位：円）

科　目	取得価額	減価償却累計額	当期末残高
	0	0	0
合計	0	0	0

6. 債権の債権金額．貸倒引当金の当期末残高及び当該債権の当期末残高　　なし

7. 担保債務等の偶発債務　　なし

8. 関連当事者との取引の内容　　なし

9. 重要な後発事象　　なし

10. その他

流動資産

立替金の内訳			0
1）短期貸付金の内訳	製剤と粒子設計部会		2,400,000
		合計	2,400,000
2）未収金の内訳	クレジットカード返金	三井住友カード（株）	71,389
	秋期研究発表会参加費	学会バンク	105,700
		合計	4,977,089

流動負債

1）未払金の内訳	クレジットカード引き落とし	三井住友カード（株）	253,257
	引き落とし手数料	学会バンク	5,547
		合計	5,235,893
2）前受会費の内訳	会費　維持会員	2025 年度	880,000
	賛助会員	〃	4,060,000
	事業所会員	〃	9,000,000
	個人会員	〃	1,190,000
	図書館会員	〃	10,120
		合計	15,140,120
3）前受金の内訳	図書購入費	名誉会員	35,000
	DEM10 スポンサー料		700,000
		合計	735,000
4）預り金の内訳	従業員	社会保険料	329,945
	源泉税	報酬	2,274
	英文誌購読料		56,000
		合計	388,219

監　査　報　告

下記 2 名は粉体工学会の，自 2024 年 1 月 1 日至 2024 年 12 月 31 日事業年度の決算の監査を実施しました。

当該期間中の帳簿，伝票，その他関係書類を調査し，いずれも正確に記録処理されているものと認めました。また，これらの帳簿から作成された正味財産増減計算書，貸借対照表は，当該期間中の収支の状況，期末の財産有高を適正に表示しているものと認めました。

以上により，別紙決算書は適正であることを報告いたします。

2025 年 1 月 31 日

一般社団法人粉体工学会

監　事　　内藤　牧男　㊞
井須　紀文　㊞

第 3 号議案

名誉会員推薦の件

番号	氏名
1	明星 敏彦
2	牧野 尚夫
3	鈴木 昇
4	橋本 信

入会順以上 4 名

2025 ～ 2026 年度 理事・監事候補者名簿

理事（29 名）○は新任

1.		芦澤　直太郎	アシザワ・ファインテック株式会社
2.		飯村　健次	兵庫県立大学
3.		市川　秀喜	神戸学院大学
4.		大野　智也	北見工業大学
5.		荻田　容宏	東京スクリーン株式会社
6.		加納　純也	東北大学
7.	○	木俣　光正	山形大学
8.		黒瀬　良一	京都大学
9.		酒井　幹夫	東京大学
10.		笹邉　修司	ホソカワミクロン株式会社
11.		白川　善幸	同志社大学
12.		瀬戸　章文	金沢大学
13.	○	高井　千加	名古屋工業大学（4 月より）・東北大学
14.	○	武居　昌宏	千葉大学
15.		多々見　純一	横浜国立大学
16.		丹野　秀昭	日本エリーズマグネチックス株式会社
17.		所　千晴	早稲田大学・東京大学
18.		中野　裕美	豊橋技術科学大学
19.		中村　圭太郎	株式会社日清製粉グループ本社
20.		野田　直希	一般財団法人電力中央研究所
21.		野村　俊之	大阪公立大学
22.		福井　国博	広島大学
23.		藤　正督	名古屋工業大学
24.		堀田　裕司	国立研究開発法人産業技術総合研究所
25.		松山　達	創価大学
26.		六車　嘉貢	塩野義製薬株式会社
27.	○	森　隆昌	法政大学
28.		山本　浩充	愛知学院大学
29.		綿野　哲	大阪公立大学

監事（2 名）

30.		井須　紀文	信州大学
31.		内藤　牧男	大阪大学

退任理事

後藤　邦彰	岡山大学

報告事項 1

2025 年度事業計画

I 行 事 予 定

行　事　名	日　程	会　場	備　考
本部行事			
2025 年度 定時総会	3.22	京都経済センター（京都）	
2025 度 春期研究発表会	5.21, 22	フォレスト仙台（宮城）	
2025 年度 粉体工学イブニングセミナー	5.21	フォレスト仙台（宮城）	
ランチョンセミナー	5.22	フォレスト仙台（宮城）	
第 59 回 技術討論会	7.1–5	アクリエ姫路（兵庫）	DEM10 と併催
DEM10	7.1–5	アクリエ姫路（兵庫）	
第 60 回 夏期シンポジウム	7.8–11	Highland Resort Hotel & Spa（山梨）	ICCCI2025 と併催
ICCCI2025	7.8–11	Highland Resort Hotel & Spa（山梨）	
2025 年度 秋期研究発表会	10.14, 15	インテックス大阪（大阪）	
第 8 回 粉体塾	未定	未定	

行　事　名	備　考
地方行事	
北海道談話会 東北談話会 関東談話会 中部談話会 西日本談話会	各談話会は年に 2 回，開催予定。 日時，場所等の詳細が決まり次第，会誌の会告欄および学会 HP に案内を掲載。
部会・研究会・勉強会・ワークショップ	
製剤と粒子設計部会 粉砕の高度利用研究会 粉砕プロセスデジタルツイン研究会 集塵技術の多機能化研究会 粉体材料設計研究会 機械的単位操作に関する産学連携研究会 粉体グリーンプロセス研究会 ソフト粒子・界面研究会 省エネルギーに貢献する粒子設計・粉体プロセスの薬工連携研究会 粉体操作に伴う諸現象に関する勉強会 医薬品共結晶の晶析モニタリングおよび粒子設計 WS 電池製造プロセスに関する WS	部会は年に 3 回，各研究会、勉強会およびワークショップ（WS）は年に 2 〜 3 回，開催予定。 日時，場所等の詳細が決まり次第，会誌の会告欄および学会 HP に案内を掲載。
特別協賛行事	
POWTEX2025（国際粉体工業展大阪 2025）	（一社）日本粉体工業技術協会が主催。 10.15–17 インテックス大阪（大阪）
その他の共催・協賛・後援行事	
（一社）日本粉体工業技術協会，日本エアロゾル学会等の国内外の関連学協会の行事への共催・協賛・後援。	

II 刊　行　物

1）粉体工学会誌　第 62 巻，1 号〜 12 号
2）Advanced Powder Technology Vol.36 No.1 〜 No.12
3）2025 年度春期研究発表会講演要旨集
4）DEM10（第 59 回技術討論会）abstract 集
5）ICCCI2025（第 60 回夏期シンポジウム）abstract 集
6）2025 年度秋期研究発表会講演要旨集

2025 年度一般会計予算

(2025 年 1 月 1 日より 2025 年 12 月 31 日まで)

経常収入の部　　(単位：円)

科　目	細　目	予算	前年実績
会費	(小計 a)	24,152,200	22,576,680
	維持会員	1,760,000	1,520,000
	賛助会員	5,390,000	4,900,000
	事業所会員	12,300,000	11,800,000
	個人会員	4,000,000	3,800,000
	学生会員	500,000	365,000
	図書館会員	147,200	141,680
	過年度	55,000	50,000
	その他	0	0
行事	(小計 b)	69,249,000	28,580,326
例会	春期研究発表会	1,650,000	2,370,800
	秋期研究発表会	2,000,000	1,606,900
	DEM10& 技術討論会	31,969,000	2,320,400
	ICCCI2025& 夏期シンポジウム	14,630,000	310,000
行事企画	粉体塾	0	0
地方談話会	北海道談話会	0	10
	東北談話会	0	20,005
	関東談話会	200,000	56,006
	中部談話会	0	398,000
	西日本談話会	0	0
部会・研究会・WS 独自予算	製剤と粒子設計部会	18,000,000	20,712,634
	粉砕の高度利用研究会	0	110,008
	粉体プロセスデジタルツイン研究会	0	0
	集塵技術の多機能化研究会	100,000	12
	粉体材料設計研究会	0	0
	機械的単位操作に関する産学連携研究会	120,000	180,034
	粉体グリーンプロセス研究会	80,000	50,000
	ソフト粒子・界面研究会	0	0
	粉体操作に伴う諸現象に関する勉強会	500,000	414,003
	注 1) 薬工連携研究会	0	31,508
	注 2) 共結晶のモニタリングおよび粒子設計 WS	0	6
	電池製造プロセスに関する WS	0	0
寄付金収入	(小計 c)	800,000	2,560,359
	研究会への補助他	800,000	2,560,359
雑収入	(小計 d)	26,422,873	30,170,665
	預金利息	0	38
	論文掲載料	1,400,000	1,303,999
	別刷代	700,000	250,500
	論文賞等への補助金	50,000	0
	協会報告会誌掲載料	1,200,000	1,292,000
	会誌広告掲載料	2,700,000	2,215,125
	粉体工業展協力費	1,500,000	2,000,000
	著作権	16,663,000	20,644,963
	図書	400,000	523,770
	印税	9,873	7,425
	その他	1,000,000	1,195,845
	用語辞典バナー掲載料	800,000	737,000
為替差益	(小計 f)	0	0
他会計からの繰り入れ	(小計 g)	0	0
経常収入計	(a+b+c+d+e+f+g)	120,624,073	83,888,030
経常外収入		0	0
当期収入計		120,624,073	83,888,030

経常支出の部　　(単位：円)

科目	細目	予算	前年実績
行事支出	(小計 a)	71,039,000	27,280,719
例会	春期研究発表会	1,300,000	1,986,482
	秋期研究発表会	1,650,000	1,185,210
	DEM10& 技術討論会	31,969,000	1,027,155
	ICCCI2025& 夏期シンポジウム	14,630,000	212,651
企画行事	粉体塾	100,000	156,071
地方談話会	北海道談話会	100,000	31,210
	東北談話会	100,000	113,845
	関東談話会	300,000	139,146
	中部談話会	100,000	494,305
	西日本談話会	100,000	0
部会・研究会・WS	製剤と粒子設計部会	18,000,000	19,215,605
	粉砕の高度利用研究会	150,000	241,868
	計算粉体力学 (2023 年度終了)	0	660
	粉体プロセスデジタルツイン研究会	150,000	0
	集塵技術の多機能化研究会	140,000	138,000
	粉体材料設計研究会	150,000	22,274
	機械的単位操作に関する産学連携研究会	670,000	735,863
	粉体グリーンプロセス研究会	230,000	141,888
	ソフト粒子・界面研究会	150,000	440
	粉体操作に伴う諸現象に関する勉強会	700,000	1,113,766
	注 1) 薬工連携研究会	150,000	154,919
	注 2) 共結晶のモニタリングおよび粒子設計 WS	100,000	79,361
	電池製造プロセスに関する WS	100,000	90,000
会誌資料発行費	(小計 b)	9,950,000	9,743,962
	印刷補助	7,300,000	7,048,542
	原稿料	800,000	1,083,004
	発送	1,600,000	1,391,316
	和文誌 J-STAGE 電子データ登載	250,000	221,100
委員会費	(小計 c)	11,405,400	6,638,000
	評議員会	85,400	0
	理事会	1,100,000	952,159
	和文誌編集委員会	2,700,000	489,571
	英文誌編集委員会	5,020,000	3,899,402
	国際交流委員会	40,000	777,633
	広報委員会	40,000	0
	出版委員会	640,000	0
	ダイバーシティ委員会	300,000	121,214
	WCPT 準備委員会	1,000,000	0
	その他の委員会	480,000	398,021
事務局費	(小計 d)	27,843,673	22,008,472
	給料	13,880,000	12,233,845
	通勤交通費	640,000	449,380
	福利厚生	250,000	176,727
	法定福利	1,550,000	1,469,060
	通信費	600,000	359,545
	旅費交通費	50,000	6,560
	備品・消耗品費	1,500,000	202,256
	リース料	151,200	0
	借室料	2,800,000	2,798,388
	光熱水道料	400,000	581,401
支払手数料	web・振込手数料，保守料金等	1,700,000	650,447
	用語辞典 WEB 化費用	200,000	0
	英文誌補助作業料	550,000	383,000
	HP 管理等費用	350,000	738,190
	税理士顧問料等	1,200,000	1,067,000
	社労士顧問料等	300,000	269,500
	PCA 会計ソフト使用料	326,260	326,260
	公租公課	90,000	70,000
	消費税	956,213	0
	雑費	350,000	226,913
名簿発行費	(小計 g)	0	0
論文賞等費	(小計 h)	500,000	271,963
粉体技術掲載料	(小計 i)	66,000	66,000
他会計への繰入れ	(小計 j)	0	8,384,081
経常支出計	(a+b+c+d+e+f+g+h+i+j)	120,804,073	74,393,197
経常外支出		0	0
当期支出計		120,804,073	74,393,197
当期収支差		-180,000	9,494,833

注 1) 正式名称　省エネルギーに貢献する粒子設計・粉体プロセスの薬工連携研究会

注 2) 正式名称　医薬品共結晶の晶析モニタリングおよび粒子設計 WS

四分法原稿募集中！

気軽に読めて楽しめる四分法原稿にご投稿されませんか？
文字数 600 字程度で，なるべく“粉”に関連したものが望ましいのですが，
限定はいたしません。
ペンネームと共に，当会和文誌編集事務局宛（E-mail:kaishi@sptj.jp）へご投稿を
お願いいたします。

*薄謝を進呈いたします。

博士学位取得者へ

博士学位を最近取得されました会員の皆さま，事務局までご連絡ください。
なお，会員の皆さまで，博士学位を取得される方をご存知の場合は，
（一社）粉体工学会 和文誌編集事務局までご一報ください。

TEL: 075-351-2318　　FAX: 075-352-8530
E-mail: kaishi@sptj.jp

粉体工学会　行事予定

☆ 主催行事

開催期日	行　事	会　場	掲載巻・号
2025年			
5月20日(火)	第19回 機能性粉体プロセス研究会	東北大学（宮城）	62巻3号
5月21日（水）〜22日（木）	2025年度 春期研究発表会【参加募集】	フォレスト仙台（宮城）	62巻4号
5月21日（水）	2025年度 粉体工学イブニングセミナー「製剤と粒子設計：マクロからミクロまで」	フォレスト仙台（宮城）	62巻2号
5月22日（木）	2025年度 ランチョンセミナー「人生いろいろ！働き方もいろいろ！」	フォレスト仙台（宮城）	62巻3号
5月28日（水）	2025年度 第1回粉体材料設計研究会『顔料研究の新たな展開』	女子美術大学相模原キャンパス（神奈川）	62巻3号
6月27日（金）	製剤と粒子設計部会 2025年度第2回見学・講演会	沢井製薬株式会社 第二九州工場（福岡）	本号
7月8日（火）〜11日（金）	第60回夏期シンポジウム【講演募集】	ハイランドリゾートホテル＆スパ（山梨）	62巻1号
10月30日（木）〜31日（金）	第42回製剤と粒子設計シンポジウム【講演募集】	朱鷺メッセ（新潟）	62巻4号

☆ 特別協賛行事

開催期日	行　事	会　場	問合せ先	TEL（FAX）E-mail URL
2025年				
10月15日（水）〜17日（金）	POWTEX2025（第26回国際粉体工業展大阪）	インテックス大阪（大阪）		https://www.powtex.com/osaka/

☆ 共催，協賛，後援行事

開催期日	行　事	会　場	問合せ先	TEL（FAX）E-mail URL
2025年				
5月15日（木）	第361回 塑性加工シンポジウム「スマート工場に向けたDX」〜センシング技術の最新活用事例〜	姫路市文化コンベンションセンターアクリエひめじ（兵庫）	日本塑性加工学会	03-3435-8301 jstp@jstp.or.jp http://www.jstp.or.jp
6月4日（水）〜5日（木）	第74回 粉体入門セミナーⅠ	アーバンネット神田カンファレンス（東京）	日本粉体工業技術協会	075-354-3581 nyumon@appie.or.jp https://appie.or.jp/introduction/organization/technical_center/education/

6月6日（金）	2025年度 静電気学会講習会 基礎編 空気清浄の全て！～集塵，ガス浄化，感染対策の原理，測定技術など～	オンライン開催	静電気学会	03-3815-4171 iesj@iesj.org http://www.iesj.org/academic/6.html
6月6日（金）～7月18日（金）	2025年度粉末冶金入門講座 1～4	オンライン開催	粉体粉末冶金協会	075-721-3650 info@jspm.or.jp https://www.jspm.or.jp/
6月12日（木）～13日（金）	界面コロイドラーニング 第41回現代コロイド・界面化学基礎講座（大阪会場）	大阪産業創造館（大阪）	第41回現代コロイド・界面化学基礎講座事務局	jigyoukikaku_01@colloid.csj.jp https://colloid.csj.jp/202502/learning-41st-osaka/
6月18日（水）～19日（木）	第75回 粉体入門セミナーⅡ	アーバンネット神田カンファレンス（東京）	日本粉体工業技術協会	075-354-3581 nyumon@appie.or.jp https://appie.or.jp/introduction/organization/technical_center/education/
6月20日（金）	第41回 物性物理化学研究会	京都大学（京都）（ハイブリッド開催）	物性物理化学研究会事務局	075-753-4792 maku22@pharm.kyoto-u.ac.jp https://www.pharm.kyoto-u.ac.jp/bussei
7月1日（火）～4日（金）	第4回 安心・安全・環境に関する計算理工学国際会議	神戸国際会議場（兵庫）	日本計算工学会，日本計算力学連合	https://www.compsafe2025.org/
7月3日（木）～4日（金）	界面コロイドラーニング 第41回現代コロイド・界面化学基礎講座（東京会場）	同志社大学東京サテライト・キャンパス（東京）	第41回現代コロイド・界面化学基礎講座事務局	jigyoukikaku_01@colloid.csj.jp https://colloid.csj.jp/202502/learning-41st-tokyo/
7月16日（水）～17日（木）	第76回 粉体入門セミナーⅢ	アーバンネット神田カンファレンス（東京）	日本粉体工業技術協会	075-354-3581 nyumon@appie.or.jp https://appie.or.jp/introduction/organization/technical_center/education/
7月18日（金）～21日（月）	International Workshop on Environmental Engineering 2025／環境工学総合シンポジウム2025（IWEE2025 & 2025SEE）	北見工業大学（北海道）	IWEE2025 & 2025SEE実行委員会	03-4335-7615 env-symp2025@jsme.or.jp https://www.jsme.or.jp/env/iwee/2025/
7月24日（木）	第19回 日本セラミックス協会関西支部学術講演会	大阪大学豊中キャンパス（大阪）	日本セラミックス協会関西支部	06-6879-7353 csjkansai_19gakujutu@chem.eng.osaka-u.ac.jp https://www.ceramic.or.jp/skansai/gaku.html
7月24日（木）～25日（金）	第22回技術講演会	湘南ヘルスイノベーションパーク（神奈川）	新製剤技術とエンジニアリングを考える会	072-774-3331 info@sinseizai.com https://sinseizai.com/
7月25日（金）	2025年度 第1回晶析分科会	三菱ケミカル 広島事業所（広島）	日本粉体工業技術協会 晶析分科会	crystallization@noritake.com https://appie.or.jp/wp-content/uploads/2025/04/250725shoseki.pdf
8月1日（金）～2026年2月28日（土）	粒子・流体プロセス技術コース2025（第39回流動層技術コース）	群馬大学（群馬）他	粒子・流体プロセス技術コース事務局	0277-30-1456 yhayashi@gunma-u.ac.jp https://sites.google.com/site/atwfbtc/

8 月 19 日（火）〜 27 日（水）	第 55 回 初心者のための有限要素法講習会（演習付き）	日本材料学会会議室（京都），FOCUS（公財）計算科学振興財団実習室（兵庫）	日本材料学会	075-761-5321 jimu@office.jsms.jp https://www.jsms.jp
8 月 27 日（水）〜 29 日（金）	第 42 回 エアロゾル科学・技術研究討論会	姫路商工会議所（兵庫）	日本エアロゾル学会	jaast-touron@conf.bunken.co.jp https://sites.google.com/view/jaast42hi/%E3%83%9B%E3%83%BC%E3%83%A0
9 月 17 日（水）〜 19 日（金）	第 38 回 秋季シンポジウム	群馬大学 荒牧キャンパス（群馬）	日本セラミックス協会	03-3362-5231 fall38@ceramic.or.jp https://fall38.ceramic.or.jp/
12 月 1 日（月）	2025 年度 粉末冶金基礎講座	京都経済センター（京都）（ハイブリッド開催）	粉体粉末冶金協会	075-721-3650 info@jspm.or.jp https://www.jspm.or.jp/
12 月 2 日（火）	2025 年度 粉末冶金実用講座	京都経済センター（京都）（ハイブリッド開催）	粉体粉末冶金協会	075-721-3650 info@jspm.or.jp https://www.jspm.or.jp/

▶会 員 消 息

会 員 数

2025 年 3 月 31 日現在

維持会員	18 社
賛助会員	70 社
事業所会員	234 社
個人会員	362 名
学生会員	84 名
図書館会員	18 社
名誉会員	88 名
会員総数	874

▶会 務 報 告

◎2025 年度 第 2 回 理事会

日　時：2025 年 3 月 29 日（土）14:40 〜 16:40
場　所：京都経済センター
出席者：白川 善幸，福井 国博，山本 浩充，芦澤 直太郎，飯村 健次，大野 智也，荻田 容宏，加納 純也，木俣 光正，酒井 幹夫，笹邉 修司，瀬戸 章文，多々見 純一，高井 千加，武居 昌宏，丹野 秀昭，所 千晴，中野 裕美，中村 圭太郎，野田 直希，藤 正督，堀田 裕司，六車 嘉貢，森 隆昌　各理事
内藤 牧男（兼参事），井須 紀文　各監事
大川原 正明，後藤 邦彰，竹内 洋文，田中 敏嗣　各参事
陪　席：事務局長 金谷 信（事務局）
議　事：

【報告事項】

報告事項 1　2025 年度第 1 回理事会議事録の確認
報告事項 2　新代表理事所信表明
報告事項 3　2025 年度行事報告・行事予定、本部行事
報告事項 4　2025 年度春期研究発表会・イブニングセミナー準備状況
報告事項 5　DEM10 & 第 59 回技術討論会準備状況
報告事項 6　ICCCI2025 & 第 60 回夏期シンポジウム準備状況
報告事項 7　2025 年度秋期研究発表会準備状況
報告事項 8　各種委員会報告
報告事項 9　地方談話会・部会・研究会・ワークショップ関係報告
報告事項 10　会員数，会費納入状況の件

【審議事項】

第 1 号議案　代表理事（会長）選任の件
第 2 号議案　副会長等選任の件
第 3 号議案　評議員選任の件
第 4 号議案　各種委員会委員選任の件
第 5 号議案　各種行事関係
第 6 号議案　各種委員会関係
第 7 号議案　組織強化・会員増強特別委員会の設置について
第 8 号議案　入会会員承認の件
第 9 号議案　その他

粒子加工技術分科会 2025 年度 第 1 回見学・講演会
（製剤と粒子設計部会 2025 年度第 2 回見学・講演会）
開催案内及び参加募集

主催：（一社）日本粉体工業技術協会粒子加工技術分科会
共催：（一社）粉体工学会　製剤と粒子設計部会

本年度第 1 回の見学・講演会を沢井製薬株式会社第二九州工場 新固形剤棟にて，下記の要領で開催いたします。

現在，医薬品の供給不安が続いており，製品の供給力強化が喫緊の課題となっています。同工場は 2024 年 7 月に竣工し，生産能力 20 億錠を実現，さらに 2027 年には 35 億錠を目指して生産ラインの強化を進めています。また，各製造工程（入荷～出荷）を管理し製造活動をサポートする製造管理システム（MES），品質に関わる試験や設備を管理する品質管理システム（LIMS），工場全体の資源を一元管理するシステム（ERP）を導入することで，ヒューマンエラーや不適切な製品出荷を防ぐための体制を備えております。本見学会ではこれらの製造ラインや品質試験設備をご見学いただく予定です。

また，午後の講演会は，同工場のテラスルームにて開催いたします。ご案内の通り，4 名の講師の方々をお迎えし，最新の研究・技術についてご講演いただきます。皆さまのご参加を心よりお待ち申し上げます。

記

【日　　時】2025 年 6 月 27 日（金）　8:15 ～ 16:00

【場　　所】見学会・講演会　：沢井製薬株式会社　第二九州工場
〒 820-0073 福岡県飯塚市平恒 1144-3　TEL　0948-24-1400（代表）
ホームページは，右記 URL よりご確認下さい。**【https://www.sawai.co.jp/】**

【集合場所】博多駅筑紫口貸切バス用駐車場　8 時 15 分集合　（JR 博多駅筑紫口から徒歩約 5 分）
貸切バス専用駐車場に送迎バスを用意しておりますので時間までにお集まり下さい。
【https://kyu-kan.net/contents/detail.php?id=214】

【送迎バスのご案内】
（往路）　8 時 30 分発　博多駅⇒ 9 時 30 分着　沢井製薬株式会社
第二九州工場　（所要時間 60 分程度）
（復路）　16 時 15 分発　沢井製薬株式会社　第二九州工場
⇒ 16 時 35 分着　新飯塚駅　（電車で新飯塚駅→博多駅は 50 分程度）
⇒ 18 時 15 分着　博多駅（渋滞が予測され到着時間は変動）

【プログラム】
受付　8:15 ～ 8:30　（受付確認書をご提示ください）
移動　8:30 ～ 9:30　バス移動
見学会　10:00 ～ 10:05　開会の挨拶
10:05 ～ 10:25　会社紹介／見学工場概要説明
10:25 ～ 12:00　工場見学（固形製剤装置，包装工程等）
昼食　12:00 ～ 12:40　（講演会場（同工場テラスルーム）にて）
講演会　12:40 ～ 12:50　開演の挨拶
12:50 ～ 13:30　講演 1 「固形製剤の工業化における製剤技術の活用」
沢井製薬株式会社 技術部 製剤技術Ⅱグループ　長村 崇史 氏
13:30 ～ 14:10　講演 2 「固形製剤工場の計画のポイント（最新固形製剤工場計画事例の御紹介）」
大成建設株式会社　エンジニアリング本部 エンジニアリング第 2 部
医薬品施設第 2 プロジェクト室　榎本 大樹 氏
14:10 ～ 14:30　コーヒーブレイク
14:30 ～ 15:10　講演 3「福岡大の製剤実習紹介と製剤関連試験を活用した予期せぬ原薬混入の検出の試み」
福岡大学薬学部　創剤学研究室　瀬戸口 修一 氏
15:10 ～ 15:50　講演 4 「効率的・効果的な GMP 監査のポイント」
QA タスカル　伊井 義則 氏

15:50 〜 16:00　閉会の挨拶
16:15　バス乗車（新飯塚駅 or 博多駅　下車）

【定　　員】50 名 （先着順で定員に達し次第締め切らせていただきます）
参加希望が多数の場合には 1 社 1 名とさせて頂く事がございます。

【参 加 費】（一社）粉体工学会・（一社）日本粉体工業技術協会会員：　9,000 円［うち消費税 818 円］
非会員：　12,000 円［うち消費税 1,091 円］
学校・研究機関関係（学生含む）：　2,000 円［うち消費税 182 円］
（消費税等込 / 税率 10％ 登録番号 :T8130005012383）
※ 会費には昼食代を含みます。

【申込締切】2025 年 6 月 13 日 （定員になり次第締め切ります。）

【申込方法】EventRegist（イベント業者）からの申込とします。以下の URL よりお申し込みください。
※ご注意ください。　5 月 9 日よりお申込みの受付を開始いたします。
https://eventregist.com/e/VYT12TbuldAf
・事前オンライン（クレジットカード）決済のみとします。
クレジットカード情報については EventRegist 経由でのお支払いであり当会で把握することはありません。
※ご注意ください：1 社から複数人がご参加される場合でもお一人ずつお申し込みください。
・領収書：ご希望の方には，見学講演会申込終了後に T 番号付 PDF で発行されメールにて送付されます。
EventRegist 申し込み画面にて「領収書を希望する」にチェックを入れてください。
・キャンセル料：システム上は，開催 24 時間前までキャンセル無料ですが，準備の関係上，キャンセルの場合は少なくとも 3 日前までにご連絡ください。
・個人情報の管理については，当分科会が責任を持って管理し，当分科会と協会からの案内にのみ使用します。他の用途には一切使用しません。

・申込に関するお問い合わせは下記までご連絡ください。
株式会社ダルトン　浅井直親　n-asai-q2jx ★ dalton.co.jp
★は @ に変更してください

【その他】 ＜お願い＞
・送迎バスご利用の皆様は，往路バス内で健康状態の確認をさせて頂きます。
＜工場見学時の注意事項＞
・工場内の移動の際は，係員の指示に従って下さい。
・見学中のメモは可，撮影は不可です。
・自家用車，社用車及びレンタカーでのご来場はお断りいたします。
・喫煙場所はございません。

編 集 後 記

本号が皆様に届くときには既に大阪・関西万博が開催されている頃である。日本では2005年に愛知で開催されて以来20年ぶり，大阪では1970年以来55年ぶりの開催である。当時私は生まれていなかったため，その状況をよく存じ上げないが，映像などでは何度も見たことがあり，非常に盛り上がっていたことがうかがえる。当時の万博では岡本太郎氏による太陽の塔が建てられ，今でも万博記念公園に残されており，まさに万博の象徴ともいえる建物である。その太陽の塔はコロナ禍においては，警戒状況をライトアップで表示させたことでも話題となった。当時の万博では「人類の進歩と調和」をテーマに掲げ，動く歩道，携帯電話，テレビ電話等，が初めて登場したが，今では当たり前のように利用されている。一方，今回の万博では大屋根（リング）が世界最大級の木造建築物として注目されているが，この建築物が太陽の塔と同じ55年後にどのようになっているかは非常に興味深い。また，新技術としては，空飛ぶクルマが話題となっているが，数十年先にはこの技術も携帯電話などと同様，当然のように利用されているであろう。私も息子を連れて是非訪れたいと思う。

さて，今月号は第58回技術討論会特集号（その1）であり，論文1報，解説1報，技術資料2報とその他海外報告1報と寄稿1報と非常に充実した内容である。本誌は論文以外にも研究ノートや技術資料などの投稿も受け付けており，皆様がお持ちの新技術に関するご投稿も是非お待ちしております。（S.M.K）

原 稿 募 集

本会誌は会員の皆様の原稿でつくられます。会員の皆様方からの論文のほかに，解説，総説，技術資料，講座・講義，学位論文紹介，海外報告，四分法等の一般記事のご投稿もお願いいたします。投稿表紙ならびに投稿規程および投稿の手引きは当会のホームページ（https://www.sptj.jp）よりダウンロードできます。投稿規程と投稿の手引きは，1号に掲載しています。

編 集 委 員

委員長	飯村 健次	
副委員長	田原 耕平	
編集委員	梅本 賢	大崎 修司
	小川 法子	門田 和紀
	小澤 隆弘	近藤 光
	高井 千加	綱澤 有輝
	中村圭太郎	仲村 英也
	深澤 智典	藤 正督
	松永 拓郎	三野 泰志
	山本 徹也	吉田 幹生
事務担当	奥村 しのぶ	

◆ 次 号 予 告 ◆

巻 頭 言　これからの粉体工学会に期待すること …… 白川　善幸

2024年度 第58回技術討論会特集

解　　説　電気泳動堆積法による無焼成セラミックスコーティング …… 打越　哲郎 他
論　　文　湿式遊星ボールミルにおける溶媒の粉砕と親水性への影響 …… 中島　佑樹 他
論　　文　スラリーの分散状態制御によるバインダーレスシート成形技術の開発 …… 佐藤根大士 他
解　　説　**APT掲載論文シリーズ**
炭酸カルシウム連鎖状ナノ粒子の形状制御と特性改善 …… 毛塚　雄己
新・基礎粉体工学講座　第2章　粉体の生成と生産プロセス
2.4　粉砕とメカノケミストリー …… 久志本　築 他
2.4.1　乾式粉砕の基礎 …… 木俣　光正

令和7年4月30日印刷
令和7年5月10日発行

粉 体 工 学 会 誌

© The Society of Powder Technology, Japan

第62巻 第5号（通巻672号）（2025）

一般社団法人粉体工学会：〒600-8176　京都市下京区烏丸通六条上ル北町181　第5キョートビル7階
TEL: 075-351-2318　FAX: 075-352-8530
No. 5 Kyoto Bldg., 181 Kitamachi, Karasuma-dori, Rokujo-agaru, Shimogyo-ku, Kyoto 600-8176, Japan
E-mail: office@sptj.jp（庶務）　kaishi@sptj.jp（和文誌編集）　URL: https://www.sptj.jp/

編集兼発行人：一般社団法人粉体工学会（代表理事会長 白川 善幸）

印　刷　所：中西印刷株式会社
〒602-8048　京都市上京区下立売通小川東入ル
TEL: 075-441-3155　FAX: 075-417-2050　E-mail: funtai@nacos.com